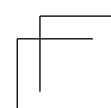
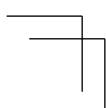
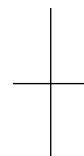


新聞学専攻

新聞学研究科

新聞学専攻



科目名	原書研究(英) I	担当者	小林 聡明	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、コミュニケーション研究の歴史的展開を学び、当該研究領域のパラダイムに内包された意味について、政治や文化という文脈から検討するものである。それは、その時代に、なぜ、そこで、そういった研究が生まれ出されてきたのかを考えるものであり、本授業で扱う内容は、コミュニケーション研究をめぐる思想史という側面も有している。			
授業目的・到達目標	本授業は、次の3つの目的を有している。 ①コミュニケーション研究史の理解 ②コミュニケーション研究パラダイムの東アジアでの展開に関する理解 ③英語文献の読解能力の向上 関連するDP・CP 4、5、7			
履修条件	英語文献の読解に強い意欲を持ち、継続的な努力（毎回、数ページにわたる英文和訳など）を行える学生の履修を強く希望する。			
授業方法	受講者は、毎週、教科書の割り当てられた部分の英文和訳を行って、授業にのぞむことが求められる。授業内では、自らが行った英文和訳について口頭で発表し、皆で議論する。面接授業をベースに、オンライン会議システム「Zoom」による受講希望者がいる場合は、Zoomを併用した授業を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	英語文献の読解力と発表・討論の内容に基づいて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	Routledge	The International History of Communication Study	
	2013	Routledge	The Handbook of Communication History	
	1994	The Free Press	A History of Communication Study	
	備考			
参考書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	希望者は、授業の前後に直接教員に申し出て、アポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	授業の進め方の説明、各自の担当箇所決定
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
2	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
3	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）

科目名	原書研究(英)Ⅱ	担当者	小林 聡明	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、コミュニケーション研究の歴史的展開を学び、当該研究領域のパラダイムに内包された意味について、政治や文化という文脈から検討するものである。それは、その時代に、なぜ、そこで、そういった研究が生まれ出されてきたのかを考えるものであり、本授業で扱う内容は、コミュニケーション研究をめぐる思想史という側面も有している。			
授業目的・到達目標	本授業は、次の3つの目的を有している。 ①コミュニケーション研究史の理解 ②コミュニケーション研究パラダイムの東アジアでの展開に関する理解 ③英語文献の読解能力の向上 関連するDP・CP4、5、7			
履修条件	英語文献の読解に強い意欲を持ち、継続的な努力（毎回、数ページにわたる英文和訳など）を行える学生の履修を強く希望する。			
授業方法	受講者は、毎週、教科書の割り当てられた部分の英文和訳を行って、授業にのぞむことが求められる。授業内では、自らが行った英文和訳について口頭で発表し、皆で議論する。面接授業をベースに、オンライン会議システム「Zoom」による受講希望者がいる場合は、Zoomを併用した授業を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	英語文献の読解力と発表・討論の内容に基づいて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2015	Routledge	The International History of Communication Study	
	2013	Routledge	The Handbook of Communication History	
	1994	The Free Press	A History of Communication Study	
	備考			
参考書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	希望者は、授業の前後に直接教員に申し出て、アポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	授業の進め方の説明、各自の担当箇所決定
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
2	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
3	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の英文和訳を行い、コメントを準備する（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究A	担当者	大石 裕	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	『朝日新聞政治部』（鮫島浩著）を参考にしながら、戦後日本のジャーナリズムについて考える。 『国家・メディア・コミュニティ』（大石裕）をもとにして、メディアとジャーナリズムに関する諸問題に関して、解説、議論を行う。			
授業目的・到達目標	戦後日本のジャーナリズムの問題点に関して理解すること。メディアとジャーナリズムの問題に関して歴史的観点から考察する力を高める。 関連するDP・CP新聞学研究科1、3			
履修条件	ジャーナリズム、ニュースに関心があること。			
授業方法	受講生による発表とそれに基づく質疑応答、議論。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業態度、期末レポートの内容。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2023年	慶應義塾大学法学研究会	「新聞ジャーナリズムの可能性と限界―「朝日新聞政治部」を素材にして―」『法学研究』96巻4号	大石裕
	2022年	慶應義塾大学法学研究会	『国家・メディア・コミュニティ』	大石裕
	備考			
参考書	・鮫島浩『朝日新聞政治部』講談社、2022年。 ・大石裕『批判する/批判されるジャーナリズム』慶應義塾大学出版会、2017年。			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（1時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	自分の研究テーマとの関係の確認（2時間）
2	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストの業界・組織への適応（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
3	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリスト政治家の「距離」
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

4	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストと政策との関わり
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
5	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	政権交代とジャーナリズム
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
6	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	調査報道
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
7	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	「吉田調書」「吉田証言」問題
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
8	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	日本のジャーナリズムの行方
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
9	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第1章 マス・コミュニケーションと近代国民国家（1）（これ以降『国家・メディア・コミュニティ』）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
10	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第1章 マス・コミュニケーションと近代国民国家（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
11	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第2章 情報社会論再考——グローバルゼーションとの関連を中心に——（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
12	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第2章 情報社会論再考——グローバルゼーションとの関連を中心に——（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
13	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第3章 情報化の進展とコミュニティ（論）の変容——国民国家との関連から——（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
14	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第3章 情報化の進展とコミュニティ（論）の変容——国民国家との関連から——（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
15	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究B	担当者	大石 裕	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	『国家・メディア・コミュニティ』（大石裕）をもとにして、メディアとジャーナリズムに関する諸問題に関して、解説、議論を行う。						
授業目的・到達目標	戦後日本のジャーナリズムの問題点に関して理解すること。メディアとジャーナリズムの問題に関して歴史的観点から考察する力を高める。 関連するDP・CP新聞学研究科1、3						
履修条件	ジャーナリズムやニュースに関心があること。						
授業方法	受講生による発表とそれに基づく質疑応答、議論。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業態度、期末レポートの内容。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2022年	慶応義塾大学法学研究会	国家・メディア・コミュニティ	大石裕			
	備考						
参考書	大石裕（2022）『コミュニケーション研究—社会の中のメディア（第5版）』慶応義塾大学出版会。 大石裕（2014）『メディアの中の政治』勁草書房。						
オフィスアワー							

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの確認（1時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	自分の研究テーマとの関係の確認（2時間）
2	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第4章 多様化・多層化するコミュニティとコミュニティ・メディア（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第4章 多様化・多層化するコミュニティとコミュニティ・メディア（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第5章 戦後日本社会のメディア・ナショナリズム（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第5章 戦後日本社会のメディア・ナショナリズム（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第5章 戦後日本社会のメディア・ナショナリズム（3）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第6章 日本のソフト・パワーの「歴史性」と「政治性」（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第6章 日本のソフト・パワーの「歴史性」と「政治性」（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
9	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第7章 「物語」としての政治と歴史認識（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
10	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第7章 「物語」としての政治と歴史認識（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
11	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第8章 ジャーナリズムと歴史認識（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
12	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第8章 ジャーナリズムと歴史認識（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
13	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第9章 沖縄地方紙と沖縄の「地方益」（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
14	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	第9章 沖縄地方紙と沖縄の「地方益」（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
15	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	全体のまとめ
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究C	担当者	水野 剛也	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講の最大の目的は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。アメリカは日本やヨーロッパ諸国に比べ、国としての歴史は浅い。だが、こと「言論・報道の自由」に関しては、成文化された憲法の下、世界でも有数の起伏に富んだ積み上げがある。日本をはじめ世界各国に与えた影響も多大であり、居住国・地域にかかわらず、学ぶべき点は多い。			
授業目的・到達目標	上述のとおり、本講の最大の目的、かつ到達目標は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。受講者の関心や要望もふまえるつもりであるが、基本的には、ジャーナリズムの定義とその変遷、言論・表現の自由に関する概念の発達、憲法修正第1条、報道の発展・普及とともに形づくられたニュースの価値、他方で発生した数々の弊害をふまえて意識化されたジャーナリズムの自由と責任に関する考え方、などを主題として取りあげる予定である。上記の諸点について、基本的な知識を獲得した上で、大局的に理解することをめざすが、その過程で、文献を精読し、建設的なディスカッションを展開する能力も同時に鍛えることができるはずである。また、大学院生は、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。DP・CP1、3「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
履修条件	「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
授業方法	小規模となるのが予想されるので、教員による一方的な講義はしない。各自が文献を精読し、それにもとづく報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、能力を相互に高めあいたい。少なくとも1度は、映画など映像作品を鑑賞、批評する回を設ける予定である。課題文献は「教科書」の2冊を予定しているが、受講者数、また受講者の関心により、柔軟に変更する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	試験は実施しない。	
	平常評価	100%	文献の精読、それにもとづく報告とディスカッションにむけて入念な準備をし、かつ各回において自発的・積極的に参加できているかにより評価をする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	論創社	自由で責任あるメディア	米国プレスの自由調査委員会
	2023	勁草書房	映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み	別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也
	備考	The Commission on Freedom of the Press, A Free and Responsible Press: A General Report on Mass Communication: Newspapers, Radio, Motion Pictures, Magazines, and Books (Chicago, IL: University of Chicago Press, 1947).		
参考書	マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ『アメリカ報道史』（松柏社、2016年）。ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件』（新潮社、2024年）。			
オフィスアワー	金曜日の講義後（事前連絡要）			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバス閲読。(120分)
	授業内容	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。本講の概要や運営方針、アメリカのジャーナリズムの歴史について学ぶことの意義を理解し、今後、能動的に学んでいく最低限の方法を知る。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
2	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	本講ではいかなる意味で「ジャーナリズム」をとらえるかを、主要な要素をあげて解説する。ジャーナリズムにはさまざまな定義があること、逆にいえば、唯一絶対的な定義があるわけではなく、時代などによっても変りえる動的なものであることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
3	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	前回の内容をふまえ、より多様なジャーナリズムの定義の存在を受講者が調べ、探究する。ジャーナリズムのとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)

4	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	英米を中心とする言論・表現の自由の概念、別言すれば、ジャーナリズムによる報道の自由に対する考え方の変遷を跡づける。現在、当前視されがちな自由で批判的なジャーナリズム活動は、けっして所与のものではなく、歴史的な経過のなかで発展してきたことを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
5	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規であるアメリカ憲法修正第1条について解説する。アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
6	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	アメリカ憲法修正第1条の成立後に焦点をあて、アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規である憲法修正第1条について解説する。前回にひきつづき、アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
7	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	アメリカのジャーナリズムにおいて、ジャーナリズムの価値、つまり何が「ニュース」とであると認識されてきたのか、代表的な考え方を紹介する。ジャーナリズムの定義についてもいえるが、ニュース価値にはさまざまな考え方があること、逆にいえば、唯一絶対的な指標があるわけではなく、時代などによっても変わりが動的なものであることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
8	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	前回の内容をふまえ、ニュース価値のさまざまな形態を受講者が調べ、探究する。ニュース価値のとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
9	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	アメリカのジャーナリズムにとっては、これまで強調してきた自由もさることながら、社会的責任も車の両輪のごとくきわめて重要である点を説明する。ジャーナリズムの社会的責任の重要性について総論的に理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
10	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任に関する初期の考え方について解説する。この回の到達目標＝ジャーナリズムの社会的責任の重要性について、初期の段階に焦点をあてて理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
11	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任について、初期以降の考え方の変遷について解説する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
12	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任について、より現代的な考え方について解説する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
13	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでとは趣向を変えて、映画においてジャーナリズム、ないしジャーナリストがどのように描かれてきたのかについて解説する。映画が一般市民の認識を視覚的に反映する、という認識に立ち、ジャーナリズム、ないしジャーナリストがアメリカ社会においてどのような存在として認識されてきたのかを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
14	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでの活動をふまえ、各自の成果や課題などを検討する。自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明し、かつ他者と建設的な議論をする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)

15	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでの講義から学んだ諸点について総合的に議論する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究D	担当者	水野 剛也	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講の最大の目的は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。アメリカは日本やヨーロッパ諸国に比べ、国としての歴史は浅い。だが、こと「言論・報道の自由」に関しては、成文化された憲法の下、世界でも有数の起伏に富んだ積み上げがある。日本をはじめ世界各国に与えた影響も多大であり、居住国・地域にかかわらず、学ぶべき点が多い。			
授業目的・到達目標	上述のとおり、本講の最大の目的、かつ到達目標は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。受講者の関心や要望もふまえるつもりであるが、基本的には、ジャーナリズムの定義とその変遷、言論・表現の自由に関する概念の発達、憲法修正第1条、報道の発展・普及とともに形づくられたニュースの価値、他方で発生した数々の弊害をふまえて意識化されたジャーナリズムの自由と責任に関する考え方、などを主題として取りあげる予定である。上記の諸点について、基本的な知識を獲得した上で、大局的に理解することをめざすが、その過程で、文献を精読し、建設的なディスカッションを展開する能力も同時に鍛えることができるはずである。また、大学院生は、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。DP・CP1、3「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
履修条件	「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
授業方法	小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義はしない。各自が文献を精読し、それにもとづく報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、能力を相互に高めあいたい。課題文献は「教科書」の2冊を予定しているが、受講者数、また受講者の関心により、柔軟に変更する。少なくとも1度は、映画など映像作品を鑑賞、批評する回を設ける予定である。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	試験は実施しない。	
	平常評価	100%	文献の精読、それにもとづく報告とディスカッションにむけて入念な準備をし、かつ各回において自発的・積極的に参加できているかにより評価をする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	論創社	自由で責任あるメディア	米国プレスの自由調査委員会
	2023	勁草書房	映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み	別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也
	備考	The Commission on Freedom of the Press, A Free and Responsible Press: A General Report on Mass Communication: Newspapers, Radio, Motion Pictures, Magazines, and Books (Chicago, IL: University of Chicago Press, 1947).		
参考書	マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー『アメリカ報道史』（松柏社、2016年）。ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンステール、澤康臣訳、『ジャーナリストの条件』（新潮社、2024年）。			
オフィスアワー	金曜日の講義後（事前連絡要）			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバス閲読。（120分）
	授業内容	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。本講の概要や運営方針、アメリカのジャーナリズムの歴史について学ぶことの意義を理解し、今後、能動的に学んでいく最低限の方法を知る。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
2	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献である米国プレスの自由調査委員会、渡辺武達訳『自由で責任あるメディア』（論創社、2008年）について概説する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
3	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「まえがき」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）

4	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第1章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
5	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第2章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
6	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第3章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
7	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第4章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
8	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまで精読してきた課題文献の内容全体についてディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
9	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第5章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
10	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「第6章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
11	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「補論」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
12	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	課題文献の「解説」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
13	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	あらためて、これまで精読してきた課題文献の内容全体についてディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
14	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでの活動をふまえ、各自の成果や課題などを検討する。自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明し、かつ他者と建設的な議論をする。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)
15	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでの講義から学んだ諸点について総合的に議論する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)

科目名	ジャーナリズム・メディア研究調査 演習A	担当者	中正樹	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-----	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム調査における基本的な考え方や方法論を、演習形式で学ぶ。本演習において調査対象になるのは、新聞ジャーナリズムが提供するテキスト形式のニュース・コンテンツである。			
授業目的・到達目標	本授業の目的は、新聞ジャーナリズムが提供するニュース・コンテンツに関する実証研究を通じて、実証研究の意義と意味、そして有効性を理解することである。そのために、ニュース・コンテンツに対する内容分析と考察、及びそれらを説明できる能力を習得することを目標とする。 関連するDP・CP：4・5・7			
履修条件	ノートパソコン、またはタブレットを用いて受講可能な環境を用意できること。			
授業方法	調査方法に対する講義とディスカッション、実際の作業を中心に進める。授業では資料は配布しない。事前に、Google Classroomを通じて配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおく。また、受講生による発表は、ノートパソコンまたはタブレットを使用する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参加度で判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参考書	特になし。			
オフィスアワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 授業の内容、進め方について確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容について十分に理解する（2時間）。
2	事前学習	新聞ジャーナリズムが提供する記事の意義と意味について考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	ニュースとは何か 新聞ジャーナリズムが提供する記事の意義と意味についてディスカッションする。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
3	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（1） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。

4	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（2） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
5	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（1） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
6	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（2） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
7	事前学習	先行研究の検討を通じて、調査計画の概要を立案する（2時間）。
	授業内容	<調査計画の報告> 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
8	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（1） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
9	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（2） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
10	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（1） 収集した新聞ジャーナリズムが提供する記事を内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
11	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（2） 収集した新聞ジャーナリズムが提供する記事を内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
12	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（1） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、新聞ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
13	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（2） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、新聞ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
14	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（1） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。
15	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（2） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。

科目名	ジャーナリズム・メディア研究調査 演習B	担当者	小林 聡明	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本授業は、韓国の民主化に果たしたメディアの役割に着目し、民主主義とジャーナリズムの関係性について考える。それは、韓国を事例とした「特殊な」ジャーナリズム（史）を扱うものではない。むしろ、民主主義とメディア、ジャーナリズムと権力の関係について、比較史的に捉えることで、日本のジャーナリズム状況について、新たな視点から問い返し、普遍的な意味における民主主義とジャーナリズムの分かれ目が関係性を、立体的に析出させるものである			
授業目的・到達目標	韓国が民主化に移行するなかで、いくつもの矛盾が誘発され、それを乗り越えるという実践的な努力が試みられてきた。本授業は、韓国のメディア、ジャーナリズム研究者が、民主化以後の30年間、どのような理念と実践性に立脚し、矛盾克服のための努力を試みてきたのか、その成果は何であったのか問う。それは日本のジャーナリズム状況を批判的に捉え返し、民主主義とジャーナリズムが、どのような構造をもった関係として機能しているのかを学び取るものである。ここに本授業の目的がある。 関連するDP・CP 4、5、7			
履修条件	民主主義とジャーナリズムについて、比較と歴史という二つの側面から複合的に捉えようとする学生の履修を強く希望する。			
授業方法	輪読と討論(毎回、受講者は課題文献を読み、報告とコメントが求められる。)			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	発表と討論の内容に基づく	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	未定	未定	輪読する文献は、受講者と相談のうえ決定するが、英語文献を使用する予定である。	未定
	備考			
参考書	授業内で紹介する			
オフィスアワー	希望者は、授業の前後に直接教員に申し出て、アポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと（2時間）
	授業内容	授業の進め方の説明と輪読文献および発表者の決定
	事後学習	輪読文献の批判的検討（発表者は発表の準備、それ以外の学生は、コメントや質問を記したペーパーを作成する）（2時間）
2	事前学習	輪読文献の批判的検討（発表者は発表の準備、それ以外の学生は、コメントや質問を記したペーパーを作成する）（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の批判的検討（発表者は発表の準備、それ以外の学生は、コメントや質問を記したペーパーを作成する）（2時間）
3	事前学習	輪読文献の批判的検討（発表者は発表の準備、それ以外の学生は、コメントや質問を記したペーパーを作成する）（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の批判的検討（発表者は発表の準備、それ以外の学生は、コメントや質問を記したペーパーを作成する）（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア研究の基礎	担当者	米倉 律	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム、メディア、コミュニケーション現象への多様な社会科学的方法を手法の基礎を学修する。			
授業目的・到達目標	自らの問いを学術的に追究するために、ジャーナリズム及びメディアに関するリサーチ・デザインの手法と、その実践のための力を身につける。 修士論文へ向けて、具体的な問題を構成する。 問題に対するアプローチを選択し、研究計画を立てる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP1, 2, 5			
履修条件	とくになし。			
授業方法	研究科教員によるオムニバス形式で、講義形式を基本とし、必要に応じて議論をする。 授業の一環として、学期末に新聞学研究科大学院生合同研究発表会で発表・議論をする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	レポート、発表・討論・議論、授業への参画度などを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業時適宜指示する。		
参考書	各回の授業時、各担当教員が適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	イントロダクション 講義のねらい・目的、授業計画など
	事後学習	自らの研究計画を構想する。(60分)
2	事前学習	事前資料 (GoogleClassroomなどを通じて) を確認しておく。(30分)
	授業内容	研究とは何か (制度) 制度研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。(120分)
3	事前学習	事前資料 (GoogleClassroomなどを通じて) を確認しておく。(30分)
	授業内容	研究とは何か (理論) 理論研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。(120分)

4	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究とは何か（歴史） 歴史研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
5	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（制度） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
6	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（理論） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
7	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（歴史） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
8	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（制度） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
9	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（理論） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
10	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（歴史） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
11	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の実践例① 具体的な研究事例から研究の提示
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
12	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の実践例② 具体的な研究事例から研究の提示
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
13	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）
14	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）
15	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習A	担当者	水野 泰志	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ネット社会の進展に伴い、メディア環境が激変する中、ネットメディアを活用したジャーナリズム（ウェブジャーナリズム）について、さまざまな角度から実証的な研究を行う。内外の最新の事例にもとづき、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど既存メディアにおけるジャーナリズムとの比較を通じ、ウェブジャーナリズムの本質、信頼性、影響力、功罪、可能性、課題などを学修する。						
授業目的・到達目標	ネット時代のジャーナリズムについて、高度情報化された民主的社会の知見を深めるために、専門的な知識を蓄え、実践する能力を身につけることを目的とする。 急速に変容・深化するウェブジャーナリズムについて、さまざまな視点から基礎的知識を修得するとともに、ネット社会のあるべき姿を自らの言葉で表現できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP4, 5, 7						
履修条件	とくになし。						
授業方法	ウェブジャーナリズムの動向について、さまざまな事例を題材にした講義を中心に行う。受講者それぞれが興味を持つテーマを設定して研究を進め、論文（レポート）を作成し、その報告（プレゼン）をもとに、受講者全員で討議する。その都度、講評や解説を行う。また、必要に応じて学外研修を行う。ウェブジャーナリズムの動向は変化が激しいため、講義スケジュールなどに変動がある。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価		講義への取り組み、討議の内容、受講者ごとに設定した研究テーマにおける成果などにより、到達目標にかかわる知見を修得できたかについて総合評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	とくになし。					
参考書	必要に応じて提示する。 新聞、テレビ、ネットなど、さまざまなニュースメディアを常に意識する。						
オフィスアワー	火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 図書館L401 メールアドレス：aei03021@nifty.com						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認し、ウェブジャーナリズム論の講座への取り組みについて考える。（120分）
	授業内容	ガイダンスとして、授業のテーマ、内容、スケジュール、成績評価の方法などについて説明する。それにより、受講者は、授業計画を知り、授業の準備をスムーズに行うことができる。
	事後学習	ウェブジャーナリズム論の講座への取り組みについて整理する。（120分）
2	事前学習	ジャーナリズムとメディアについて、自らの知見をまとめる。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムとメディアについて学修する。
	事後学習	ジャーナリズムとメディアについて整理する。（120分）
3	事前学習	ウェブジャーナリズムについて、自らの知見をまとめる。（120分）
	授業内容	ウェブジャーナリズムの概要について学修する。
	事後学習	ウェブジャーナリズムについて整理する。（120分）

4	事前学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関するテーマを検討する。(120分)
	授業内容	個々の受講生がウェブジャーナリズムに関する研究テーマの事例について学修し、個々の研究テーマを設定する。
	事後学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関するテーマを整理する。(120分)
5	事前学習	自らが研究するウェブジャーナリズムに関するテーマの概要・骨格を検討する。(120分)
	授業内容	個々の受講生がウェブジャーナリズムに関する個々の研究テーマの概要・骨格を設定する。
	事後学習	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマについて、順次プレゼン(報告)できるよう、準備にとりかかる。(120分)
6	事前学習	情報革命について自らの知見をまとめる。(以下の項は各回同じ)プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポート(中間報告等)を提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。(120分)
	授業内容	情報革命とジャーナリズムについて学修する。(以下の項は各回同じ)該当のプレゼン担当者がレポートのプレゼンを行い、受講者全員で討議する。
	事後学習	情報革命について整理する。(以下の項は各回同じ)講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのレポートや討議を受け、知見を深める。(120分)
7	事前学習	ネットメディアの特性について自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	ネットメディアの特性について学修する。(同)
	事後学習	ネットメディアの特性について整理する。(同)(120分)
8	事前学習	マスメディアとマイメディアについて自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	マスメディアとマイメディアについて学修する。(同)
	事後学習	マスメディアとマイメディアについて整理する。(同)(120分)
9	事前学習	ネットメディアが社会にもたらすプラス面とマイナス面について自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	ネットメディアが社会にもたらすプラス面とマイナス面について学修する。(同)
	事後学習	ネットメディアが社会にもたらすプラス面とマイナス面について整理する。(同)(120分)
10	事前学習	ソーシャルメディア(X=ツイッター、フェイスブック、LINE、微博、微信など)の深化について自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	ソーシャルメディア(X=ツイッター、フェイスブック、LINE、微博、微信など)の深化について学修する。
	事後学習	ソーシャルメディア(X=ツイッター、フェイスブック、LINE、微博、微信など)の深化について整理する。(同)(120分)
11	事前学習	巨大プラットフォームについて自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	巨大プラットフォームについて学修する。(同)
	事後学習	巨大プラットフォームについて整理する。(同)(120分)
12	事前学習	巨大プラットフォームとネットニュースについて自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	巨大プラットフォームとネットニュースについて学修する。(同)
	事後学習	巨大プラットフォームとネットニュースについて整理する。
13	事前学習	米国や欧州のウェブジャーナリズム事情について自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	米国や欧州のウェブジャーナリズム事情について学修する。(同)
	事後学習	米国や欧州のウェブジャーナリズム事情について整理する。(同)(120分)
14	事前学習	日本やアジアのウェブジャーナリズム事情について自らの知見をまとめる。(同)(120分)
	授業内容	日本やアジアのウェブジャーナリズム事情について学修する。(同)
	事後学習	日本やアジアのウェブジャーナリズム事情について整理する。(同)(120分)
15	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、まとめのレポートを作成する。(120分)
	授業内容	受講者全員がそれぞれ、まとめのレポートのプレゼンを行い、受講者全員で討議する。
	事後学習	受講者それぞれのレポートや討議を受け、ウェブジャーナリズムについて知見をより深める。(120分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習B	担当者	水野 泰志	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ネット社会の進展に伴い、メディア環境が激変する中、ネットメディアを活用したジャーナリズム（ウェブジャーナリズム）について、さまざまな角度から実証的な研究を行う。内外の最新の事例にもとづき、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど既存メディアにおけるジャーナリズムとの比較を通じ、ウェブジャーナリズムの本質、信頼性、影響力、功罪、可能性、課題などを学修する。						
授業目的・到達目標	ネット時代のジャーナリズムについて、高度情報化された民主的社会の知見を深めるために、専門的な知識を蓄え、実践する能力を身につけることを目的とする。 急速に変容・深化するウェブジャーナリズムについて、さまざまな視点から基礎的知識を修得するとともに、ネット社会のあるべき姿を自らの言葉で表現できるようになることを目標とする。 関連するDP・CP4, 5, 7						
履修条件	とくになし。						
授業方法	ウェブジャーナリズムの動向について、さまざまな事例を題材にした講義を中心に行う。受講者それぞれが興味を持つテーマを設定して研究を進め、レポートを作成し、その報告（プレゼン）をもとに、受講者全員で討議する。その都度、講評や解説を行う。また、必要に応じて学外研修を行う。ウェブジャーナリズムの動向は変化が激しいため、講義スケジュールなどに変動がある。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価		講義への取り組み、討議の内容、受講者ごとに設定した研究テーマにおける成果などにより、到達目標にかかわる知見を修得できたかについて総合評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	とくになし。					
参考書	必要に応じて提示する。 新聞、テレビ、ネットなど、さまざまなニュースメディアを常に意識する。						
オフィスアワー	火曜日18:00～19:00（事前にメールでアポイントメントをとること） 図書館L401 メールアドレス：aei03021@nifty.com						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究について、新たなテーマを検討する。（120分）
	授業内容	個々の受講生が、ウェブジャーナリズムに関する自らの研究について、新たなテーマを設定する。
	事後学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究について、新たなテーマを整理する。（120分）
2	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究について、新たなテーマの概要・骨子を検討する。（120分）
	授業内容	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究について、新たなテーマの概要・骨子を設定する。
	事後学習	次回以降、受講者はそれぞれ決定した研究テーマのレポート（中間報告等）について、順次、報告（プレゼン）できるよう、準備にとりかかる。（120分）
3	事前学習	ネットリスクについて自らの知見をまとめる。（以下の項は各回同じ）プレゼン担当者は、事前に、自らの研究テーマについてレポートを提出して受講者全員と共有し、受講者はプレゼン担当者の研究テーマについて討議できるよう、自らの考えを整理する。（120分）
	授業内容	ネットリスクについて学修する。（以下の項は各回同じ）該当のプレゼン担当者がレポートのプレゼンを行い、受講者全員で討議する。
	事後学習	ネットリスクについて整理する。（以下の項は各回同じ）講義や、プレゼン担当者の研究テーマについてのレポートや討議を受け、知見を深める。（120分）

4	事前学習	生成A Iについて自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	生成A Iについて学修する。(同)
	事後学習	生成A Iについて整理する。(同) (120分)
5	事前学習	生成A Iのリスクについて自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	生成A Iのリスクについて学修する。(同)
	事後学習	生成A Iのリスクについて整理する。(同) (120分)
6	事前学習	生成A Iとネットニュースについて自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	生成A Iとネットニュースについて学修する。(同)
	事後学習	生成A Iとネットニュースについて整理する。(同) (120分)
7	事前学習	フェイクニュースについて自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	フェイクニュースについて学修する。(同)
	事後学習	フェイクニュースについて整理する。(同) (120分)
8	事前学習	フェイクニュース対策について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	フェイクニュース対策について学修する。(同)
	事後学習	フェイクニュース対策について整理する。(同) (120分)
9	事前学習	ネット上の誹謗中傷について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	ネット上の誹謗中傷について学修する。(同)
	事後学習	ネット上の誹謗中傷について整理する。(同) (120分)
10	事前学習	ネット上の誹謗中傷の対策について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	ネット上の誹謗中傷の対策について学修する。(同)
	事後学習	ネット上の誹謗中傷の対策について整理する。(同) (120分)
11	事前学習	メタバースについて自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	メタバースについて学修する。(同)
	事後学習	メタバースについて整理する。(同) (120分)
12	事前学習	Web 3. 0について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	Web 3. 0について学修する。(同)
	事後学習	Web 3. 0について整理する。(同) (120分)
13	事前学習	ウェブジャーナリズムの伝播力や影響力について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	ウェブジャーナリズムの伝播力や影響力について学修する。(同)
	事後学習	ウェブジャーナリズムの伝播力や影響力について整理する。(同) (120分)
14	事前学習	ウェブジャーナリズムの可能性と限界について自らの知見をまとめる。(同) (120分)
	授業内容	ウェブジャーナリズムの可能性と限界について学修する。(同)
	事後学習	ウェブジャーナリズムの可能性と限界について整理する。(同) (120分)
15	事前学習	ウェブジャーナリズムに関する自らの研究テーマについて、レポートを仕上げる。(120分)
	授業内容	受講者全員がそれぞれ、まとめのレポートのプレゼンを行い、受講者全員で討議する。
	事後学習	受講者それぞれのレポートや討議を受け、ウェブジャーナリズムについて知見をより深める。(120分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習C	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	オーディエンス・ファン・ユーザー I この講義では、古典的な効果・影響研究による受け手研究の問題点を確認し、その後のカルチュラル・スタディーズ(CS)を中心としたオーディエンス研究を考察する。その上で、ジャーナリズム・メディア特殊演習Dの導入として、CSによるオーディエンス研究の問題点を議論とともに確認し、学修する。						
授業目的・到達目標	古典的な効果・影響研究の問題点を理解する。 CSによるオーディエンス研究の概要を把握する。 オーディエンス研究の問題点を考察する。 受け手研究、オーディエンス研究の問題点について説明できる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4・5・7						
履修条件	とくになし。						
授業方法	授業資料をGoogleClassroom上に用意しておくので、それを参照しつつ、概略の簡単な講義を基に、質疑応答、議論・討論を重ねる、講義と演習の両形式でおこなう。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	小レポート、発表、討論、レポートなどを総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	とくになし。					
参考書	授業資料をGoogleClassroom上に用意する。 授業時に適宜指示する。						
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業の進め方、授業計画など
	事後学習	古典的な効果・影響研究の復習(120分)
2	事前学習	古典的な効果・影響研究の確認(60分)
	授業内容	古典的な効果影響研究の問題点① 初期→およそ1970年代までの効果・影響研究の復習
	事後学習	身近な事例で古典的な効果・影響研究を考える。(120分)
3	事前学習	事例を基に・古典的な効果・影響研究の問題点を考える。(60分)
	授業内容	古典的な効果影響研究の問題点② 古典的な効果・影響研究の問題点を議論する。
	事後学習	古典的な効果・影響研究の問題点をまとめる。(60分)

4	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判① 古典的研究へのホールの批判、社会的条件
	事後学習	ホールによる批判点としての社会的条件をについて身近な事例から理解する。(120分)
5	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判② ホールによる映像メディアの特性
	事後学習	身近な映像メディアでホールの議論を考える。(120分)
6	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判③ デコーディングに関する仮説的モデル
	事後学習	身近な事例で仮説的モデルを考える。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究① 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
8	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究② 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究③ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究④ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
11	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究⑤ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点① ハートレイの議論を基に考察する。
	事後学習	ハートレイが何を問題にしたかを理解する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点② ハートレイの議論を基に考察する。
	事後学習	ハートレイが何を問題にしたかを理解する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点③ オーディエンス研究の問題点について議論する。
	事後学習	オーディエンス概念自体を問い直す。(120分)
15	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点④：まとめをかねて 演習Dの事前学習を兼ね、オーディエンス研究の問題点を整理する。
	事後学習	オーディエンス研究の問題点をまとめる。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習D	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	オーディエンス・ファン・ユーザーⅡ この講義では、ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの講義内容を前提に、オーディエンス研究の問題点を考察した上で、ファン、ユーザーに焦点をあて、受け手とされてきた人びとの利用実践を考える。						
授業目的・到達目標	オーディエンス研究の問題点を理解する。 ファン、ユーザーといった概念を把握する。 メディアやコミュニケーションといったICTに関する、人びとの利用実践に関するアプローチを考察する。 オーディエンス研究の問題点を説明できる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4・5・7						
履修条件	とくになし。						
授業方法	授業資料をGoogleClassroom上に用意しておくので、それを参照しつつ、概略の簡単な講義を基に、質疑応答、議論・討論を重ねる、講義と演習の両形式でおこなう。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	小レポート、発表、討論、レポートなどを総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	とくになし。					
参考書	授業資料をGoogleClassroom上に用意する。 授業時に適宜指示する。						
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業の進め方、授業計画など
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習をする。(120分)
2	事前学習	オーディエンス研究の問題点の確認(60分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習① オーディエンス研究の問題点、フィクションとしてのオーディエンス：オーディエンス≠実体
	事後学習	オーディエンス概念をめぐる議論の確認。(120分)
3	事前学習	技術としてのメディア、ICTを確認する。(60分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習② 技術としてのメディアについて議論をする。
	事後学習	テクノロジー研究の意義を確認する。(60分)

4	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究① オーディエンスとファンとの関係、ファンとは誰かetc
	事後学習	ファン研究が何を焦点にしているか、を確認する。(60分)
5	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究② ファン研究が焦点にしているものを議論する。
	事後学習	ファンの実践に対する視点を理解する。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究③ ファン研究の事例①
	事後学習	ファン研究の事例を復習する。(60分)
7	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究④ ファン研究の事例②
	事後学習	ファン研究の事例からわかることを考える。(60分)
8	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究⑤ ファン研究の特徴を議論する。
	事後学習	ファン研究の課題を考察する。(120分)
9	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究① オーディエンスの問題点→ユーザーという視点、ファン・ユーザー≠実体
	事後学習	身近なICTの利用について考察する。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究② ICTの利用実践について考える。
	事後学習	身近なICTの利用について考察する。(60分)
11	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ICT研究③ 人びとの利用実践について考える。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ICT研究④ 利用実践に関するアプローチを議論する。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究⑤ 利用実践に関するアプローチを議論する。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス、ファン、ユーザー研究の問題点と課題① 演習全体の議論をまとめた討論
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習CとD全体の議論を総括する。(120分)
15	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス、ファン、ユーザー研究の問題点と課題① 演習全体の議論をまとめた討論→メディア研究の今後の課題
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習CとD全体の議論をまとめ、メディア研究の今後の課題を考察する。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義A	担当者	鈴木 雄雅	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講義はグローバル社会におけるメディアの影響を多角度から学ぶために、前学期（講義A）はジャーナリズムやメディアといった枠組み（機能・役割）の前にコミュニケーションの基礎を学びと現代に至る進展を、また後学期（講義B）は各論（テーマ別）＝ニュース論、戦争、グローバル化するメディア文化などの諸問題を取りあげる。授業に關係するシンポジウムなど（大学内外）があれば授業の一助として活用する。前後学期とも受講生との対話を重視する。			
授業目的・到達目標	本講義はマス・メディアやインターネットを介した情報流通の諸問題を手がかりにして、ジャーナリズム・メディアコミュニケーションの諸問題を考える。異なる政治経済体制の国々、歴史や文化を異にする国々の中で南北問題や開発問題など、さまざまな局面にみられる国際間のコミュニケーションの問題も扱う。そのなかで、国際間のコミュニケーションを主軸に、ジャーナリズム、マス・メディアのあり方、マス・メディアへの接し方を学ぶ場とする。コミュニケーション、マス・コミュニケーションの基礎的な知識を修得し、国際間におけるマス・メディア/メディアの役割（機能）を考えることができること。ジャーナリズムの果たすべき役割は何かを問うことができるようにする。関連するD.P・C.P 1, 3			
履修条件	今日のグローバル社会に身を置き、マス・メディア/インターネットに主体的に接することが日常に行えること。国際間のニュースの流れ、ジャーナリズムの役割、マス・メディアの現在に関心のある学生			
授業方法	クイズやインターネットを使ったリアクション、ビデオ映像、新聞記事などから、多面的にアクセスする。毎回ではないが、映像メディアを利用して、現代社会で何がニュースとなっているかや、時事解説を講義に取り入れるので、下記のシラバスについては必ずしも一致しない場合もある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加度、リアクションペーパー、アサイメントの提出及び国際コミュニケーション、グローバル・コミュニケーションの基礎を理解しているかどうかを評価の一助とする	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2016	日本評論社	【ゼミナール】日本のマス・メディア [第3版]	春原昭彦・武市英雄（編）
	2018	春風社	世界のメディア	小寺敦之（編）
	2003	ミネルヴァ書房	グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）
備考	講義Aは主に【ゼミナール】日本のマス・メディア [第3版]を使う。その他指定文献、論文などは講義時に適宜紹介する。			
参考書	各回テーマにより随時指定			
オフィスアワー	授業時間後、授業講堂にて。その他Email(HAF00025@nifty.ne.jp)で随時、質問・相談を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	当該科目の履修確認。また、事前にシラバスを確認しておくこと。（2時間） Google Classroomに授業クラスを作成しますので、第1回授業前までに大学メールをチェックのこと
	授業内容	オリエンテーション
	事後学習	当該科目の履修届。また、これまでの復習を行っておくこと（2時間）
2	事前学習	前回授業内容、資料の確認 各回レジュメ（サイトアクセスを含む）を配布する。授業計画中の文献には書籍、論文、新聞・ネット記事（ニュース）、映像、URLなどを含む。（2時間）
	授業内容	概念、定義(1) コミュニケーション、マス・コミュニケーション、メディア、ジャーナリズム
	事後学習	ゼミナール第1章 指定文献・論文の精読（2時間）
3	事前学習	前回授業内容と資料の読解（2時間）
	授業内容	概念、定義(2) 国際コミュニケーション（グローバルコミュニケーション）、グローバリゼーション
	事後学習	ゼミナール第1章、5章-4 指定文献の精読（2時間）

4	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムの進展と衰退（1）
	事後学習	ゼミナール第2-3章、指定文献の精読（2時間）
5	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムの進展と衰退（2）
	事後学習	ゼミナール第2-3章、指定文献の精読（2時間）
6	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムの進展と衰退（3）
	事後学習	ゼミナール第2-3章、指定文献の精読（2時間）
7	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとメディアの進展（1）ーメディア産業の規模と構造
	事後学習	ゼミナール第4章、グローバル社会とメディア、指定文献の精読（2時間）
8	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとメディアの進展（2）ーメディア産業の拡大
	事後学習	ゼミナール第5章、グローバル社会とメディア、指定文献の精読（2時間）
9	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	グローバリゼーションとメディアの進展（3）ーメディア産業のグローバル化
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
10	事前学習	前回授業内容、資料の確認（2時間）
	授業内容	メガ・メディアからギガ・メディアの時代（1）
	事後学習	グローバル社会とメディア、指定文献の精読（2時間）
11	事前学習	前回授業内容、資料の確認
	授業内容	マス・メディアからメガ・メディアの時代（2）
	事後学習	グローバル社会とメディア、指定文献の精読（2時間）
12	事前学習	前回授業内容、資料の確認
	授業内容	インターネット時代のジャーナリズムの諸問題（1）フェイクニュース
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
13	事前学習	前回授業内容、資料の確認
	授業内容	インターネット時代のジャーナリズムの諸問題（2）文化摩擦
	事後学習	指定文献の精読（2時間）
14	事前学習	前回授業内容、資料の確認
	授業内容	インターネット時代のジャーナリズムの諸問題（3）国際政治
	事後学習	指定されたテーマについてレポート作成（2時間）
15	事前学習	2～14回講義ノートの通読 レポートの作成（2時間）
	授業内容	総括 ジャーナリズム、メディアについて作成したレポートの発表、討論と評価
	事後学習	レポート発表で指摘された内容、評価について考察する（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義B	担当者	鈴木 雄雅	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講義はグローバル社会におけるメディアの影響を多角度から学ぶために、前学期（講義A）はジャーナリズムやメディアといった枠組み（機能・役割）の前にコミュニケーションの基礎を学び現代にいたる進展を、また後学期（講義B）は各論（テーマ別）＝ニュース論、戦争、グローバル化するメディア文化などの諸問題を取りあげる。授業に關係するシンポジウムなど（大学内外）があれば授業の一助として活用する。前後学期とも受講生との対話を重視する。			
授業目的・到達目標	本講義はマス・メディアやインターネットを介した国際間の情報流通の諸問題を手がかりにして、ジャーナリズム・メディアコミュニケーションの諸問題を考える。異なる政治経済体制の国々、歴史や文化を異にする国々の間で南北問題や開発問題など、さまざまな局面にみられる国際間のコミュニケーションの問題を扱う。そのなかで、国際間のコミュニケーションのあり方を軸に国際報道、ジャーナリズム、マス・メディアのあり方、マス・メディアへの接し方を学ぶ場とする。コミュニケーション、マス・コミュニケーションの基礎的な知識を修得し、国際間におけるマス・メディア/メディアの役割（機能）を考慮することができること。ジャーナリズムの果たすべき役割は何かを問うことができるようにする。関連するDP・CP1, 3			
履修条件	今日のグローバル社会に身を置き、マス・メディア/インターネットに主体的に接することが日常的にできること。国際間のニュースの流れ、ジャーナリズムの役割、マス・メディアの現在に関心のある学生。			
授業方法	クイズやインターネットを使ったリアクション、ビデオ映像、新聞記事などから、多面的にアクセスする。毎回ではないが、授業資料や論文を授業サイトにアップするので授業前には目をとおすことを心掛けること。また映像・ネットメディアを利用して、現代社会で何がニュースとなっているかや、時事解説を講義に取り入れるので、下記にシラバスについては必ずしも一致しない場合もある。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加度、リアクションペーパー、アサイメントの提出及び国際コミュニケーション、グローバル・コミュニケーションの基礎を理解しているかどうかを評価の一助とする	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2003	ミネルヴァ書房	グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）
	2018	春風社	世界のメディア	小寺敦之（編）
	備考	その他指定文献、論文などは講義時に適宜紹介する。		
参考書	H. H. フレデリック、武市英雄ほか（訳）『グローバル・コミュニケーション』（松柏社、1996）、山本賢二・小川浩一（編著）『国際コミュニケーションとメディアー東アジアの諸相ー』（学文社、2019）、その他随時紹介する。			
オフィスアワー	授業時間後、授業講堂にて。その他Email(HAF00025@nifty.ne.jp)で随時、質問・相談を受け付けます。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	前学期履修した内容の復習（2時間） 未履修者は講義Aのシラバスを読んで必要な知識を修得しておく。Google Classroom にアクセス、担当者からのメールをチェックのこと
	授業内容	後学期のオリエンテーション・進め方について 一文献、関係するネットサイト、研究方法などの紹介
	事後学習	指定資料などの精読（2時間）
2	事前学習	教科書5章「グローバル社会とメディア」（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(1)
	事後学習	配布資料の精読（2時間）
3	事前学習	前回資料の確認（2時間）
	授業内容	ジャーナリズム機能と国際報道に期待される役割(2)
	事後学習	配布資料の精読（2時間）

4	事前学習	グローバル社会とメディア 7章 (2時間)
	授業内容	国際報道、政治報道の諸問題(1) 日米報道や対中、対韓報道
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
5	事前学習	グローバル社会とメディア 5章 (2時間)
	授業内容	国際報道、政治報道の諸問題(2) 客観報道主義
	事後学習	配布資料の精読 (2時間)
6	事前学習	日露戦争を調べる (2時間)
	授業内容	戦争とメディア：日露戦争 (映像利用)
	事後学習	アサイメント (リアベ) (2時間)
7	事前学習	ベトナム戦争を調べる (2時間)
	授業内容	プロパガンダ、戦争 (紛争) と国際報道をめぐる諸問題(1) ベトナム戦争 (映像利用)
	事後学習	アサイメント (リアベ) (2時間)
8	事前学習	湾岸戦争、イラク戦争を調べる (2時間)
	授業内容	プロパガンダ、戦争 (紛争) と国際報道をめぐる諸問題(2) 湾岸戦争、イラク戦争 (映像利用)
	事後学習	アサイメント (リアベ) (2時間)
9	事前学習	グローバル社会とメディア 6章 (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(1)-韓流・華流
	事後学習	関係サイトの閲覧、トピックの検出 (2時間)
10	事前学習	前回事後学習の確認 (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(2)-ジャパニメーション
	事後学習	実態の把握 (2時間)
11	事前学習	指定論文を読む (2時間)
	授業内容	グローバル化するメディア文化の諸問題(3) GAFA+
	事後学習	指定論文の精読 (2時間)
12	事前学習	前回講義の復習 (2時間)
	授業内容	インターネット時代の国際報道(1) フェイクニュースの登場とポピュリズムの台頭
	事後学習	国際報道の検証 (2時間)
13	事前学習	指定論文 (2時間)
	授業内容	インターネット時代の国際報道(2) 国際メディア監視組織
	事後学習	国際報道の検証 (2時間)
14	事前学習	2回の国際報道講義の復習 (2時間)
	授業内容	インターネット時代の国際報道(3) テロ・ポピュリズム
	事後学習	指定されたテーマについてレポート作成 (2時間)
15	事前学習	4～14回講義ノートの通読 レポートの作成 (2時間)
	授業内容	総括 ジャーナリズム、メディアについて作成したレポートの発表、討論と評価
	事後学習	レポート発表で指摘された内容、評価について考察する

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義C	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代日本のマンガ・アニメ・ゲーム I 現代日本のポップカルチャーの中からマンガ、アニメ、ゲームに焦点をあてる。この講義Cにおいては、特に現代マンガの構造とそれの成立までの歴史過程を中心に学修する。そして、1970年代以後のアニメ、ゲームとの連関を概観し、講義Dへの導入までを学修する。						
授業目的・到達目標	この講義は、現代日本マンガの基本構造と特徴を通して、日本の文化・社会の理解と、講義Dの予備的考察の基礎を形成することを目的とする。 現代マンガの成立までの歴史的過程を日本の社会・文化状況との関係で理解する。 現代日本マンガの特徴を理解し、諸外国のマンガとの相違点を通して、日本のポップカルチャーの世界への影響を考察する。 関連するDP・CP新聞学研究科1, 3						
履修条件	特になし。						
授業方法	資料をGoogleClassroom上にアップしておくので、それを利用して、基本的には講義形式となるが、状況に応じて議論をおこなう。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業時における議論およびレポート等を基に総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	特になし。					
参考書	授業資料をGoogleClassroom上に資料をアップする。 また、授業時に適宜参考文献、資料を指示する。						
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、授業内容の確認、今後の授業計画など
	事後学習	ガイダンス授業の内容を再度確認しておく。(30分)
2	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本のポップカルチャーの諸外国への影響 諸外国（特に欧米）へ越境する日本のマンガ、アニメ、ゲームおよびそれに付随するコスプレ等の文化について概観する。
	事後学習	授業資料を再確認しながら授業内容を復習し、越境の状況を把握する。(60分)
3	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素① 古典的な研究の概観→現代的なマンガ研究：表現構造によるマンガの定義へ……コマの重要性
	事後学習	授業資料を基に、表現構造に着目する理由を理解し、メディア論との関係を考察する。(120分)

4	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素② 表現構造によるマンガの定義：複製芸術など マンガの構造モデル（への導入）
	事後学習	複製による大量生産＝コピー：複製芸術→ベンヤミンの複製技術に関する考察など、授業内容を基に復習し、理解する。(180分)
5	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素③ マンガの構造モデル①マンガに必要な要素、マンガの構図など
	事後学習	手塚治虫を中心に確立したコマの連続の意義、マンガにおける絵とは何を意味するかなどを授業を復習し、考える。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素④ マンガの構造モデル②マンガの構図：枠線、描線(背景、音論、形論(マンガ記号))など
	事後学習	マンガの構図、日本マンガの特徴としての描線などに関して、身近なマンガ表現を参照・確認しておく。そこから日本のマンガの特徴を理解する。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ① 現代マンガ成立前史として、幕末から大正、昭和初期までの歴史の概観する。
	事後学習	授業内容を踏まえ、日本の近代化の初期過程について、その社会、文化の変容過程を考察する。(180分)
8	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ② 戦中のマンガ：言論統制下におけるマンガ、少年マンガの基本形態
	事後学習	戦時体制下における思想や表現の自由の統制とその頃に成立するマンガの枠組みについて、確認しておく。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ③ 戦後マンガの状況(出版状況)、手塚治虫による現代マンガの成立
	事後学習	日本の戦後の民主化とその時期の社会状況を確認し、その時期の出版状況とマンガのあり方を理解する。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ④ スポーツマンガ(野球マンガ)の構造、劇画etc
	事後学習	戦中期の少年マンガの枠組みとスポーツマンガの関係、少年ジャンプのスローガンなどを基に、問題点などを考察する。(120分)
11	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ① 戦前→1960年代の少女マンガ、マーガレットの誕生：少女マンガの原型の確立
	事後学習	少女マンガの原型にみられる特徴とそれ以前の少女マンガの差異を理解する。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ② 70年代における少女マンガの表現の革新：花の24年組の意義＝手塚マンガの矛盾の克服
	事後学習	手塚のマンガ表現における矛盾を確認し、少女マンガの意義を理解する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ③ 言語の位相化：萩尾望都を例に、少女マンガ表現の拡散と難解化
	事後学習	言語の位相化の意義と、その他領域への影響を理解する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ジャンルの解体と融合① 少女マンガ表現の拡散：やおい、少年マンガとの関係、少女小説→ライトノベルetc
	事後学習	女性たちによる表現領域の拡大がどのような影響をもたらしたかを考察する。(180分)
15	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ジャンルの解体と融合②：まとめをかねて 宇宙戦艦ヤマト、機動戦士ガンダム、銀河鉄道999などによるアニメブーム、少女マンガ表現の拡散、ゲーム表現の誕生etc
	事後学習	講義Dへの予習をかねて、80年代とそれ以後のマンガと他ジャンルとの関係を概観し、身近なマンガ表現との関係を考察しておく。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義D	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代日本のマンガ・アニメ・ゲームⅡ 現代日本のポップカルチャーの中からマンガ、アニメ、ゲームに焦点をあてる。この講義Dにおいては、講義Cを前提に、まず60年代初頭の手塚によるアニメの特徴を確認し、1970年代後半以後のジャンルの解体と融合およびゲームとその後の展開、インターネット時代でのポップカルチャーの状況を学修する。						
授業目的・到達目標	この講義は、講義Cでの学修を前提に、現代日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴を、日本の文化・社会の理解とともに考察し、諸外国との類似と差異とを理解することを目的とする。 現代日本のマンガ、アニメ、ゲームなどに関して、その文化の基盤と背景を理解する。 現代日本マンガ、アニメ、ゲームに関して、諸外国との類似と差異とに着目し、日本のポップカルチャーの世界への影響を考察する。 関連するDP・CP新聞学研究科1, 3						
履修条件	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cを履修していること。						
授業方法	資料をGoogleClassroom上にアップしておくので、それを利用して、基本的には講義形式となるが、状況に応じて議論をおこなう。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業時における議論およびレポート等を基に総合的に評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考	特になし。					
参考書	授業資料をGoogleClassroom上に資料をアップする。 また、授業時に適宜参考文献、資料を指示する。						
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、授業内容の確認、今後の授業計画など
	事後学習	ガイダンス授業の内容を再度確認しておく。(30分)
2	事前学習	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cの復習(60分)
	授業内容	ジャンルの融合と解体：ジャーナリズム・メディア特殊講義Cの復習 80年代前後以来のジャンルの解体と融合および変容、新規メディアの誕生などの状況の確認 スリップストリームなど
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cを踏まえて、授業内容を確認しておく。(60分)
3	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	アニメの誕生① アニメーションとアニメの相違、フルアニメとリミテッドアニメ 手塚治虫によるアニメーション制作技法=アニメの誕生
	事後学習	アニメの特徴を理解する。(30分)

4	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	アニメの誕生② 手塚アニメの技法：リミテッドアニメ、バンクシステム、スターシステムなど
	事後学習	手塚治虫による制作技法を確認しておく。(30分)
5	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	シミュレーションとしてのマンガ：童夢 大塚英志による大友克洋のマンガ表現技法、
	事後学習	大友マンガの特徴を捉え、シミュレーション概念を理解しておく。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	物語消費論① シミュラクルや記号消費など、物語消費論の前提
	事後学習	身近な事例などを通して、シミュラクル概念を理解する。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	物語消費論② 物語消費とはなにか、物語消費の発展の結果は
	事後学習	身近な事例を取り上げ、物語消費の視点から考察する。(180分)
8	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム① ポストモダンなど、東浩紀のゲーム的リアリズムの前提、 キャラクター消費、データベース消費、動物化
	事後学習	リオタールによるポストモダン概念を把握する。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム② メディア環境の変容：コンテンツ志向のメディア→コミュニケーション志向のメディア 想像力の環境の変容：自然主義リアリズム→まんが・アニメ的リアリズム→ゲーム的リアリズム
	事後学習	東による環境の変容を理解し、その問題点について考察する。(120分)
10	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム③ メディア環境の変容に関する東の議論の問題点
	事後学習	メディア環境の変容について考察する。(120分)
11	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム④ 想像力の環境の変容に関する東の議論の問題点： 1970年代後半から80年代の少女小説、ゲーム世界
	事後学習	想像力の環境の変容について考察する。(120分)
12	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム⑤ 東によるキャラクターやデータベースなどの議論の問題点： 手塚アニメの技法(バンクシステム、スターシステムなど)、キャラクターと作品、サンリオなど
	事後学習	手塚アニメの技法を再確認し、それと東の議論とを比較する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム⑥ キャラクター消費の問題点②： カワイイ消費を振り返る、カワイイ概念の拡張など
	事後学習	身近なカワイイについて確認してみる。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本産コンテンツの世界への拡張 ICTを介したマンガ、アニメとそれ以前のマンガ、アニメ ファン・コミュニティ
	事後学習	日本的なマンガ、アニメが世界へと拡散した理由について考察する。(180分)

15	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	まとめ ジャーナリズム・メディア特殊講義CとDを通したまとめ 日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴、世界との関係など
	事後学習	日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴と日本の文化、社会との関係を理解する。(180分)

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義A	担当者	山口 仁	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえていく。メディア・ジャーナリズム理論に関する論文執筆のための基礎的素養を高めていく。			
授業目的・到達目標	メディア・ジャーナリズム理論研究に関する議論を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。 関連するDP・CP：1,2			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心、および「ジャーナリズム研究における社会学的転回（Jorgensen and Hanitzsch 2009：4-9）」に関する基礎的な知識を持っていること。			
授業方法	課題文献を設定してその精読を行う。翻訳が主ではなく、メディア・ジャーナリズムの理論研究に関する理解とそれをもとにした議論を行っていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	文献講読に関する発表内容と討論・議論の内容に基づく。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2016	Routledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S. Steensen
	2016	下記URL参照	Theories of Journalism	S. Reese
備考	このほかの文献を指示する場合もある。初回課題論文 (https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190228613.013.83)			
参考書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスと初回課題論文の熟読。（2時間）
	授業内容	S. Reese “Theories of Journalism”の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジюмеやレポートの作成。（2時間）
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	S. Reese “Theories of Journalism”の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジюмеやレポートの作成。（2時間）
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジюмеやレポートの作成。（2時間）

4	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
5	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
6	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism Theory" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
7	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism Theory" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
8	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism Theory" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
9	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"News Organizations and Routines" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
10	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"News Organizations and Routines" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
11	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"News Organizations and Routines" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
12	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Boundary Work Matt" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
13	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Boundary Work Matt" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
14	事前学習	課題文献の該当箇所の精読 (2時間)
	授業内容	"Boundary Work Matt" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
15	事前学習	1~14回までの授業をもとにした課題資料の作成 (2時間)
	授業内容	授業を通じて学んだ概念を自己の研究に反映させるための検討・討論
	事後学習	自身の研究論文への反映に向けたブラッシュアップ (2時間)

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義A	担当者	米倉 律	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	放送、映画を中心とする映像メディア、ジャーナリズムの分野を中心に扱う。この分野をめぐる現代的状況、およびそれらに関する基本的研究状況についての知識を習得するとともに、課題や可能性などについて考えるための基本的視座を目指す。			
授業目的・到達目標	授業目的：映像ジャーナリズムの歴史、産業、文化、研究状況の基本を学ぶ。 到達目標：今後に向けた課題、可能性について考えるための基本的視座を獲得する。 関連するDP・CP：1、2			
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として関心を持つ者。			
授業方法	教科書の講読。各回において指定したパートの内容をまとめ、報告するとともに受講者でディスカッションして理解を深めていく。教科書は学生と相談のうえ決定する。授業に関する連絡や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加度、貢献度および提出課題の内容、水準で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業時に、受講者と相談のうえ決定する。		
参考書	扱うテーマに応じて、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 オフィス メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	導入： 授業の内容、進め方について確認するとともに、教科書を選定する。
	事後学習	導入授業の内容について理解し、教科書を準備する。
2	事前学習	教科書の指定された箇所を読み、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分のレジュメ発表、ディスカッション、検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を復習、検討する（2時間）。
3	事前学習	教科書の指定された箇所を読み、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分のレジュメ発表、ディスカッション、検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を復習、検討する（2時間）。

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義B	担当者	山口 仁	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえていく。メディア・ジャーナリズム理論に関する論文執筆のための基礎的素養を高めていく。特にニュースメディア・コンテンツに関する理論的な議論を学ぶ。			
授業目的・到達目標	メディア・ジャーナリズム理論に関する議論を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。 関連するDP・CP：1,2			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心、「ジャーナリズム理論特殊研究」を履修済みであることが望ましい。			
授業方法	課題文献を設定してその精読を行う。翻訳が主ではなく、メディア・ジャーナリズムの理論研究に関する理解とそれをもとにした議論を行っていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	文献講読に関する発表内容と討論・議論の内容に基づく。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2016	Routledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S. Steensen
	備考			
参考書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスと初回課題論文の熟読。（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

4	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"Framing the News" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
5	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"Framing the News" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
6	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"Framing the News" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
7	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"News, Discourse, and Ideology" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
8	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"News, Discourse, and Ideology" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
9	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"News, Discourse, and Ideology" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
10	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	News and Storytelling" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
11	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	News and Storytelling" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
12	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	News and Storytelling" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
13	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism and Democracy" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
14	事前学習	課題文献の該当箇所精読 (2時間)
	授業内容	"Journalism and Democracy" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
15	事前学習	課題文献の該当箇所精読と1~14回までの授業をもとにした課題資料の作成 (2時間以上)
	授業内容	"Journalism and Democracy" in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の輪読と討論③ と自身の研究論文への適用可能性についての検討。
	事後学習	自身の研究論文への反映に向けたブラッシュアップ (2時間)

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義B	担当者	米倉 律	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	放送、映画を中心とする映像メディア、ジャーナリズムの分野を中心に扱う。この分野をめぐる現代的状況、およびそれらに関する基本的研究状況についての知識を習得するとともに、課題や可能性などについて考えるための基本的視座を目指す。			
授業目的・到達目標	授業目的：映像ジャーナリズムの歴史、産業、文化、研究状況の基本を学ぶ。 到達目標：今後に向けた課題、可能性について考えるための基本的視座を獲得する。 関連するDP・CP：1、2			
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として関心を持つ者。			
授業方法	教科書の講読。各回において指定したパートの内容をまとめ、報告するとともに受講者でディスカッションして理解を深めていく。教科書は学生と相談のうえ決定する。授業に関する連絡や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加度、貢献度および提出課題の内容、水準で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業時に、受講者と相談のうえ決定する。		
参考書	扱うテーマに応じて、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 オフィス メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	導入： 授業の内容、進め方について確認するとともに、教科書を選定する。
	事後学習	導入授業の内容について理解し、教科書を準備する。
2	事前学習	教科書の指定された箇所を読み、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分のレジュメ発表、ディスカッション、検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を復習、検討する（2時間）。
3	事前学習	教科書の指定された箇所を読み、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分のレジュメ発表、ディスカッション、検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を復習、検討する（2時間）。

科目名	ジャーナリズム特殊研究A	担当者	三谷 文栄	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代民主主義において、一般の人々はメディアを介して政治を経験することから、政治におけるメディアの役割は極めて重要である。近年は、インターネットやSNSなど、多様なコミュニケーションがみられるようになり、政治コミュニケーション研究は、より一層その重要性を増している。この講義を通じて政治とメディアを分析するための、基本的な枠組みを学ぶ。			
授業目的・到達目標	政治コミュニケーション論がいかに発展してきたのかを理解し、その上で政治コミュニケーション論で注目されている文献を取り上げ、議論する。それを通じて、政治コミュニケーション論の観点から、様々な出来事を分析できるようになることが目標である。関連するDP・CP1, 3			
履修条件	特にないが、英語の文献を取り上げるので、英日辞書やアプリ等を準備してほしい。			
授業方法	基本的には英語文献の輪読を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業内の議論を通じて、各自の理解度を確認する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	字数制限により、ここで提示しきれないため、第一回目にて説明する。		
参考書	必要に応じて適宜対応します。			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読む（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義のスケジュールや、分担の確認。
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
2	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
3	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）

4	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
5	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
6	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
7	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
8	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
9	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
10	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
11	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
12	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
13	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
14	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
15	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論、この講義のまとめ
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)

科目名	ジャーナリズム特殊研究B	担当者	三谷 文栄	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代民主主義において、一般の人々はメディアを介して政治を経験することから、政治におけるメディアの役割は極めて重要である。近年は、インターネットやSNSなど、多様なコミュニケーションがみられるようになり、政治コミュニケーション研究は、より一層その重要性を増している。前期に続いてこの講義では、政治とメディアを分析するための基本的な枠組みを輪読を通じて学ぶ。			
授業目的・到達目標	政治コミュニケーション論がいかに発展してきたのかを理解し、その上で政治コミュニケーション論で注目されている文献を取り上げ、議論する。それを通じて、政治コミュニケーション論の観点から、様々な出来事を分析できるようになることが目標である。関連するDP・CP1, 3			
履修条件	ジャーナリズム特殊研究Aを履修していることが望ましい。また、英語の文献を取り上げるので、英日辞書やアプリ等を準備してほしい。			
授業方法	基本的には英語文献の輪読を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業内の議論を通じて、各自の理解度を確認する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	字数制限により、ここで提示しきれないため、第一回目にて説明する。		
参考書	必要に応じて適宜対応します。			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読む（2時間）
	授業内容	ガイダンス：講義のスケジュールや、分担の確認。
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
2	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
3	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）

4	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
5	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
6	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
7	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
8	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
9	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
10	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
11	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
12	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
13	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
14	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)
15	事前学習	講義を通じて学んだ分析枠組みがどのように自身の研究に活用できるのかを考える。(2時間)
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論と後期のまとめ
	事後学習	配布された文献を読む。(2時間)

科目名	ジャーナリズム特殊研究C	担当者	笹田 佳宏	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	新聞・雑誌・放送といったマスメディア、あるいはそこで仕事に従事しているジャーナリストは取材・報道にあたって多くの法律がかかわってくる。それらの法律について、判例や学説を踏まえながら取材・報道活動にかかわる法的課題を学修する。						
授業目的・到達目標	現代のマスメディアが抱える法的な諸課題を考察する力を身につけるために、各法律がマスメディアの報道活動に与えている影響を習得する。 関連するDP・CP 1、3						
履修条件	特になし。						
授業方法	各授業回のテーマについて、各自が事前にレポートをまとめておく。授業では、各自の発表をもとに議論を行う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	発表・討議への参加度など。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	2021	勁草社	法とジャーナリズム 第4版			山田健太	
	備考						
参考書	授業内で適宜、提示する。						
オフィスアワー	月曜日昼休み。事前にメールでアポイントを取ること。sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバス内容を読んでおく (30分)
	授業内容	ガイダンス、授業の進め方
	事後学習	授業で紹介した法律で関心を持ったものを調べる。
2	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する (2時間)
	授業内容	表現の自由と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する (2時間)
3	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する (2時間)
	授業内容	検閲の禁止と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する (2時間)

4	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	知る権利とは何か
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
5	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	名誉棄損と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
6	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	プライバシーの侵害と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
7	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	裁判の公開と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
8	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	少年法と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
9	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	わいせつの概念と表現
	事後学習	プライバシーの侵害と報道の自
10	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	選挙と報道の自由
	事後学習	プライバシーの侵害と報道の自
11	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	国民投票法と報道の自由
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
12	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅰ
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
13	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅱ
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
14	事前学習	テーマについて各自レポートを作成する（2時間）
	授業内容	放送の自由Ⅲ
	事後学習	授業を踏まえ、レポートを再作成する（2時間）
15	事前学習	これまで作成したレポートを読む（2時間）
	授業内容	まとめ
	事後学習	本科目の学修を振り返り、反省点をまとめる。

科目名	ジャーナリズム特殊研究D	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本ではメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように倫理学を扱う。それがどれだけ間違っただけか明確にするのが本講義の主な内容である。つまり自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について講義する。中でも、「極化」現象とジャーナリズムの倫理を中心テーマとして講義を進める。						
授業目的・到達目標	本講義は、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する諸問題に対する、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、「極化」現象とジャーナリズムの倫理の問題点とは何かを理解することを目的とする。 それゆえ、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策を批判的に捉える、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、「極化」現象とジャーナリズムの倫理の問題点とは何かを理解することを目標とする。関連するDP・CP新聞学研究科1, 3						
履修条件	大学院の講義である以上、学部レベルの基礎知識があることは大前提である。あわせて、ジャーナリズム特殊研究Cの単位取得者であることも必須条件とする。						
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて、レポート提出を求める。レポートの書き方は、予め指導する。提出されたレポートに関する講評は、講義内で行うとともに、希望者には、個人指導の時間を設ける。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	準備学習の程度50%、授業時に行う議論の内容等50%。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	2021	日本評論社	ジャーナリズムの規範理論			塚本晴二郎	
	備考						
参考書	受講者の関心に応じて、柔軟に対応していくので、適宜に指示する。						
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	「ジャーナリズム特殊研究C」で学んだことをふまえて、テキストの第4章の1を読み、クリフォード・G・クリスチャンズの問題意識について考察する。(2時間)
	授業内容	若干の「ジャーナリズム特殊研究C」の復習の後、クリスチャンズの問題意識を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
2	事前学習	テキストの第4章の2を読み、クリスチャンズの啓蒙主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの啓蒙主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
3	事前学習	テキストの第4章の3を読み、クリスチャンズの自由主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの自由主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)

4	事前学習	テキストの第4章の4を読み、クリスチャンズの功利主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの功利主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
5	事前学習	テキストの第4章の5を読み、クリスチャンズの道具主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの道具主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
6	事前学習	テキストの第4章の6を読み、クリスチャンズの相対主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの相対主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
7	事前学習	テキストの第4章の7を読み、クリスチャンズのジャーナリズム倫理学について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズのジャーナリズム倫理学を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
8	事前学習	テキストの第4章の8を読み、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズムについて考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズムを論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
9	事前学習	テキストの終章の1を読み、「真実を述べること」と「信頼をえること」について考察する。(2時間)
	授業内容	ジャーナリズムにおける「真実を述べること」と「信頼をえること」を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
10	事前学習	テキストの終章の2を読み、ジャーナリズムの定義について考察する。(2時間)
	授業内容	ジャーナリズムの定義について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
11	事前学習	テキストの終章の3を読み、ナショナリスティック・アプローチについて考察する。(2時間)
	授業内容	ナショナリスティック・アプローチについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
12	事前学習	テキストの終章の4を読み、リバタリアン・アプローチについて考察する。(2時間)
	授業内容	リバタリアン・アプローチについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
13	事前学習	テキストの終章の5を読み、リベラル・ジャーナリズムについて考察する。(2時間)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
14	事前学習	テキストの終章の6を読み、コミュニタリアン・ジャーナリズムについて考察する。(2時間)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、初回からの講義内容を再検討する。(2時間)
	授業内容	初回からの講義内容を整理し、重要な点は何かを検討し合う。
	事後学習	すべての講義ノートを確認し、これまで学んできたことを整理する。(2時間)

科目名	新聞学研究所合同演習A	担当者	石川 徳幸	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	日本大学法学部新聞学研究所（研究指導部門／共同研究プロジェクト）との合同演習を行う。具体的には、当該年度の前期に新聞学研究所が主催する研究指導部門の調査研究に関するイベントに参加したり、ジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関連した研究プロジェクトに参加したりすることで、調査研究に関する知識・技能・態度を身につける機会を提供する。			
授業目的・到達目標	実際の研究プロジェクトに参加することで、調査研究の企画・運営を体験しながら理解する。研究会や学会などに参加し、実際の調査研究にふれることで、多様な研究の方法を体得する。プロジェクトあるいは研究指導での経験を基に、自らの研究計画を構成する。 (関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4, 5, 8)			
履修条件	とくになし。			
授業方法	この科目は、①事前指導、②インターンシップ（実習）、③事後報告、④レポートの作成で構成する。なお、演習は新聞学研究所のプロジェクトあるいは研究指導のイベントに合わせて行われるため、授業スケジュール等には変動がある。詳細は初回ガイダンスおよびGoogleクラスルームで随時説明する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	研究プロジェクトや研究指導部門のイベントへの参加度合い、報告書レポートをもとに評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。		
参考書	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。			
オフィスアワー	【2025年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※校務が重なると研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業について、新聞学研究所について、授業計画など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
2	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	新聞学研究所のプロジェクトについて 研究指導部門のイベントについて
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
3	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方① 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)

4	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方② 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
5	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加①
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
6	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加②
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
7	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加③
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
8	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加④
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
9	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑤
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
10	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑥
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
11	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告① 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
12	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告② 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
13	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
14	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
15	事前学習	事後報告書作成(60分)
	授業内容	まとめと反省
	事後学習	事後報告書のまとめ(180分)

科目名	新聞学研究所合同演習B	担当者	石川 徳幸	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	日本大学法学部新聞学研究所（研究指導部門／共同研究プロジェクト）との合同演習を行う。具体的には、当該年度の後期に新聞学研究所が主催する研究指導部門の調査研究に関するイベントに参加したり、ジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関連した研究プロジェクトに参加したりすることで、調査研究に関する知識・技能・態度を身につける機会を提供する。			
授業目的・到達目標	実際の研究プロジェクトに参加することで、調査研究の企画・運営を体験しながら理解する。研究会や学会などに参加し、実際の調査研究にふれることで、多様な研究の方法を体得する。プロジェクトあるいは研究指導での経験に基づき、自らの研究計画を構成する。 (関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4, 5, 8)			
履修条件	とくになし。			
授業方法	この科目は、①事前指導、②インターンシップ（実習）、③事後報告、④レポートの作成で構成する。なお、演習は新聞学研究所のプロジェクトあるいは研究指導のイベントに合わせて行われるため、授業スケジュール等には変動がある。詳細は初回ガイダンスおよびGoogleクラスルームで随時説明する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	研究プロジェクトや研究指導部門のイベントへの参加度合い、報告書レポートをもとに評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。		
参考書	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。			
オフィスアワー	【2025年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※校務が重なるため研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業について、新聞学研究所について、授業計画など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
2	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	新聞学研究所のプロジェクトについて 研究指導部門のイベントについて
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
3	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方① 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)

4	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方② 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
5	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加①
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
6	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加②
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
7	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加③
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
8	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加④
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
9	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑤
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
10	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑥
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
11	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告① 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
12	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告② 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
13	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
14	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
15	事前学習	事後報告書作成(60分)
	授業内容	まとめと反省
	事後学習	事後報告書のまとめ(180分)

科目名	文献研究(英) I	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムの古典的なテキストクリフォード・クリスチャンズ他のMedia Ethics第11版のIntroductionからThe Commercialization of Everyday Lifeまでを読む。						
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。						
履修条件	特になし						
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	2020	Routledge	Media Ethics 11th ed.			Clifford G. Christiana, et al.	
	備考						
参考書	適宜に指示する。						
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	Introductionを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Introductionの輪読。
	事後学習	Introductionの内容の確認。(2時間)
3	事前学習	Institutional Pressuresを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Institutional Pressuresの輪読。
	事後学習	Institutional Pressuresの内容の確認。(2時間)

4	事前学習	Institutional Pressuresに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Institutional Pressuresに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
5	事前学習	Truthtellingを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Truthtellingの輪読。
	事後学習	Truthtellingの内容の確認。(2時間)
6	事前学習	Truthtellingに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Truthtellingに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
7	事前学習	Reporters and Sourcesを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Reporters and Sourcesの輪読。
	事後学習	Reporters and Sourcesの内容の確認。(2時間)
8	事前学習	Reporters and Sourcesに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Reporters and Sourcesに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
9	事前学習	Social justiceを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Social justiceの輪読。
	事後学習	Social justiceの内容の確認。(2時間)
10	事前学習	Social justiceに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Social justiceに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
11	事前学習	Privacyを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Privacyの輪読。
	事後学習	Privacyの内容の確認。(2時間)
12	事前学習	Privacyに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Privacyに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
13	事前学習	The Commercialization of Everyday Lifeを予習しておく。(2時間)
	授業内容	The Commercialization of Everyday Lifeの輪読。
	事後学習	The Commercialization of Everyday Lifeの内容の確認。(2時間)
14	事前学習	The Commercialization of Everyday Lifeに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	The Commercialization of Everyday Lifeに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答。
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(中) I	担当者	小林 聡明	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	冷戦期、大韓民国と中華民国は、東アジアの「反共国家」として、強い結び付きを有しており、それは政治や経済、文化にいたるまで広範な側面から看取されていた。本授業では、台湾で機密解除のうえ公開されている中華民国外交部の档案を分析することで、1960年代から70年代にかけての韓台関係について、主として宣伝・メディア方策の観点から実証的に分析しようとする。			
授業目的・到達目標	本授業は、次の3つの目的を有している。 ①韓台関係(史)の理解 ②中華民国外交部および中国国民党の宣伝政策への理解 ③中国語(台湾華語)文献の読解能力の向上 関連するDP・CP6			
履修条件	中国語(台湾華語)文献の読解に強い意欲を持ち、継続的な努力(毎回、数ページにわたる和訳作業など)を行える学生の履修を強く希望する。			
授業方法	受講者は、毎週、外交档案の割り当てられた部分の英文和訳と、自らの分析やコメントを記したペーパーをもって授業にのぞむことが求められる。授業内では、それらをふまえ、皆で議論する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	中国語(台湾華語)文献の読解力と発表・討論の内容に基づいて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	授業内で指示する	授業内で指示する	授業内で指示する	授業内で指示する
	備考			
参考書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	希望者は、授業の前後に直接教員に申し出て、アポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと(2時間)
	授業内容	授業の進め方の説明、各自の担当箇所決定
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
2	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
3	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時

科目名	文献研究(独) I	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ユルゲン・ハーバーマスのStrukturwandel der ÖffentlichkeitのVorwort zur Neuauflage 1990から第6節までをを読む。			
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。			
履修条件	特になし			
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	1990	Suhrkamp	Strukturwandel der Öffentlichkeit	Jürgen Habermas
	備考			
参考書	適宜に指示する。			
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	Vorwort zur Neuauflage 1990を予習しておく。(2時間)
	授業内容	Vorwort zur Neuauflage 1990の輪読。
	事後学習	Vorwort zur Neuauflage 1990の内容の確認。(2時間)
3	事前学習	第1節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第1節の輪読。
	事後学習	第1節の内容の確認。(2時間)

4	事前学習	第1節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第1節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
5	事前学習	第2節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第2節の輪読。
	事後学習	第2節の内容の確認。(2時間)
6	事前学習	第2節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第2節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
7	事前学習	第3節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第3節の輪読。
	事後学習	第3節の内容の確認。(2時間)
8	事前学習	第3節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第3節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
9	事前学習	第4節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第4節の輪読。
	事後学習	第4節の内容の確認。(2時間)
10	事前学習	第4節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第4節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
11	事前学習	第5節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第5節の輪読。
	事後学習	第5節の内容の確認。(2時間)
12	事前学習	第5節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第5節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
13	事前学習	第6節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第6節の輪読。
	事後学習	第6節の内容の確認。(2時間)
14	事前学習	第6節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第6節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答。
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(日) I	担当者	石川 徳幸	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム・メディアに関する研究を進めていくうえで必要となる文献（研究書・学術論文）を読み解き、要約した内容を説明するアカデミックスキルを身につける。			
授業目的・到達目標	日本語で書かれたジャーナリズム・メディアに関する文献を講読する。社会科学の領域における日本語に馴染むとともに、専門書を読み解くことで当該分野における基本的な知識を修得する。 【関連するDP・CP6】			
履修条件	日本語を母語とない者（留学生）のみ。			
授業方法	日本語文献を輪読する。 ①（事前学修）あらかじめ指定された範囲を読み、レジュメを作成する。意味がわからない用語があれば調べ、読めない語句があれば読み方を確認しておくこと。 ②レジュメに基づき、要約と自分の考えを発表する。 ③履修者全員のレジュメに基づき、ディスカッションをおこなう。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	レジュメの内容、発表態度、ディスカッションへの参加度などを総括的に評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	中央公論新社	『マスメディアとは何か：「影響力」の正体』（中公新書 2706）	稲増 一憲
	備考			
参考書	参考文献を適宜指示する。			
オフィスアワー	【2025年度オフィスアワー】 授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※校務が重なりと研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの内容を読んでおく（30分程度）
	授業内容	前期全体のガイダンス、およびイントロダクション
	事後学習	指定された文献の入手と内容確認（30分程度）
2	事前学習	指定された資料を読んで、内容を理解しておくこと（90分程度）
	授業内容	文献の読み方、関連資料の調べ方、レジュメの作成方法①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認（30分程度）
3	事前学習	指定された章の読了、日本語での要約文の作成（90分程度）
	授業内容	文献の読み方、関連資料の調べ方、レジュメの作成方法②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認（30分程度）

4	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第1章「マスメディアは『魔法の弾丸』か」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
5	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第1章「マスメディアは『魔法の弾丸』か」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
6	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第2章「マスメディアは人々に影響を与えない？」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
7	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第2章「マスメディアは人々に影響を与えない？」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
8	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第3章「社会に広がる『2つのバイアス』」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
9	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第3章「社会に広がる『2つのバイアス』」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
10	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第4章「『現実認識』を作り出すマスメディア」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
11	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第4章「『現実認識』を作り出すマスメディア」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
12	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第5章「マスメディアとしてのインターネット」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
13	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第5章「マスメディアとしてのインターネット」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
14	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第6章「メディアの未来、社会の未来」
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）
15	事前学習	指定された章の読了、日本語でのレジュメ作成（120分程度）
	授業内容	第6章「メディアの未来、社会の未来」、総括
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認、他の履修生のレジュメの良い点と改善点をまとめる（60分程度）

科目名	文献研究(仏) I	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究、ジャーナリズム研究に関するフランス語文献を講読し、それを日本語として理解する。			
授業目的・到達目標	フランス語でメディア研究、ジャーナリズム研究および社会学の関連文献と論文を講読する。フランス語の専門文献を読み解き、日本語に翻訳することを通して、日本語表現を身に付けることにもなる。 フランス語の学術文献を日本語に翻訳できるようになる。 関連するDP・CP新聞学研究科DP・CP6			
履修条件	とくになし。			
授業方法	フランス語文献（論文、著書）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業時での発表および課題レポートの成果。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講生のフランス語能力に合わせて、オンライン上の無料フランス語学術文献を選択する。		
参考書	受講生のフランス語能力に合わせて、授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業計画など フランス語能力の確認、フランス語文献について
	事後学習	授業時に指示されたアドレスで、複数のフランス語文献の概略を確認する。(60分)
2	事前学習	指示されたフランス語文献をのabstractを確認する。(60分)
	授業内容	文献の選択 テキストとして使用するフランス語文献の選択
	事後学習	フランス語文献をダウンロードし、内容全体を確認しておく。(60分)
3	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)

4	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
5	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
6	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
7	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
8	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
9	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
10	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
11	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
12	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
13	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
14	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
15	事前学習	使用テキスト全体の翻訳をまとめる(120分)
	授業内容	まとめと課題提示
	事後学習	テキストの翻訳部分をまとめ、内容の議論をレポートとして作成する。(180分)

科目名	文献研究(英)Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムの古典的なテキストクリフォード・クリスチャンズ他のMedia Ethics第11版のThe Media and CommercialからMedia Scope and Depthまでを読む。			
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。			
履修条件	文献研究(英)Ⅰの単位取得者であること。			
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	Routledge	Media Ethics 11th ed.	Clifford G. Christians, et al.
	備考			
参考書	適宜に指示する			
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	The Media and Commercialを予習しておく。(2時間)
	授業内容	The Media and Commercialの輪読。
	事後学習	The Media and Commercialの内容の確認。(2時間)
3	事前学習	The Media and Commercialに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	The Media and Commercialに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)

4	事前学習	Public communicationを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Public communicationの輪読。
	事後学習	Public communicationの内容の確認。(2時間)
5	事前学習	Public communicationに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Public communicationに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
6	事前学習	Conflicting Loyaltiesを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Conflicting Loyaltiesの輪読。
	事後学習	Conflicting Loyaltiesの内容の確認。(2時間)
7	事前学習	Conflicting Loyaltiesに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Conflicting Loyaltiesに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
8	事前学習	Violenceを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Violenceの輪読。
	事後学習	Violenceの内容の確認。(2時間)
9	事前学習	Violenceに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Violenceに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
10	事前学習	Profits, Wealth, and Public Trustを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Profits, Wealth, and Public Trustの輪読。
	事後学習	Profits, Wealth, and Public Trustの内容の確認。(2時間)
11	事前学習	Profits, Wealth, and Public Trustに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Profits, Wealth, and Public Trustに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
12	事前学習	Media Scope and Depthを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Media Scope and Depthの輪読。
	事後学習	Media Scope and Depthの内容の確認。(2時間)
13	事前学習	Media Scope and Depthに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Media Scope and Depthに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
14	事前学習	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味を持ったテーマについての発表を準備する。(2時間)
	授業内容	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味を持ったテーマについての発表とコメント。
	事後学習	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味を持ったテーマについての発表に対するコメントの内容の確認。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答
	事後学習	他の人のもも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(中)Ⅱ	担当者	小林 聡明	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	冷戦期、大韓民国と中華民国は、東アジアの「反共国家」として、強い結び付きを有しており、それは政治や経済、文化にいたるまで広範な側面から看取されていた。本授業では、台湾で機密解除のうえ公開されている中華民国外交部の档案を分析することで、1960年代から70年代にかけての韓台関係について、主として宣伝・メディア方策の観点から実証的に分析しようとする。			
授業目的・到達目標	本授業は、次の3つの目的を有している。 ①韓台関係(史)の理解 ②中華民国外交部および中国国民党の宣伝政策への理解 ③中国語(台湾華語)文献の読解能力の向上 関連するDP・CP6			
履修条件	中国語(台湾華語)文献の読解に強い意欲を持ち、継続的な努力(毎回、数ページにわたる和訳作業など)を行える学生の履修を強く希望する。			
授業方法	受講者は、毎週、外交档案の割り当てられた部分の英文和訳と、自らの分析やコメントを記したペーパーをもって授業にのぞむことが求められる。授業内では、それらをふまえ、皆で議論する。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	中国語(台湾華語)文献の読解力と発表・討論の内容に基づいて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	授業内で指示する	授業内で指示する	授業内で指示する	授業内で指示する
	備考			
参考書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	希望者は、授業の前後に直接教員に申し出て、アポイントメントを取ってください。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと(2時間)
	授業内容	授業の進め方の説明、各自の担当箇所決定
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
2	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
3	事前学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時間)
	授業内容	討論と輪読
	事後学習	来週、扱う文献を読んだうえで、担当箇所の和訳を行い、コメントを準備する(2時

科目名	文献研究(独)Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ユルゲン・ハーバーマスのStrukturwandel der Öffentlichkeitの第7節から第12節までを読む。						
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。						
履修条件	文献研究(英)Ⅰの単位取得者であること。						
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	1990	Suhrkamp	Strukturwandel der Öffentlichkeit	Jürgen Habermas			
	備考						
参考書	適宜に指示する						
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	第7節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第7節の輪読。
	事後学習	第7節の内容の確認。(2時間)
3	事前学習	第7節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第7節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)

4	事前学習	第8節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第8節の輪読。
	事後学習	第8節の内容の確認。(2時間)
5	事前学習	第8節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第8節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
6	事前学習	第9節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第9節の輪読。
	事後学習	第9節の内容の確認。(2時間)
7	事前学習	第9節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第9節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
8	事前学習	第10節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第10節の輪読。
	事後学習	第10節の内容の確認。(2時間)
9	事前学習	第10節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第10節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
10	事前学習	第11節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第11節の輪読。
	事後学習	第11節の内容の確認。(2時間)
11	事前学習	第11節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第11節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
12	事前学習	第12節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第12節の輪読。
	事後学習	第12節の内容の確認。(2時間)
13	事前学習	第12節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第12節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
14	事前学習	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表を準備する。(2時間)
	授業内容	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表とコメント。
	事後学習	文献研究(英) Iも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表に対するコメントの内容の確認。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答
	事後学習	他の人のもも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(日)Ⅱ	担当者	笹田 佳宏	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究を進めて行くうえで基本となる文献をとおして、メディア研究の基本的知識、認識、方法論を学ぶ。			
授業目的・到達目標	メディア研究に関する複数の基本的な文献を、的確に読み、まとめ、議論に生かす力を習得することが目的である。その成果を、レポートとしてまとめる。 関連するDP・CP6			
履修条件	特になし			
授業方法	テキスト読解、レジュメ作成、報告、ディスカッションの形式で行う			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	毎回の授業でレジュメを作成、報告すること。発表、討議の参加度など	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2022	勁草書房	デジタル変革時代の放送メディア	民放連研究所客員研究会編
	備考			
参考書	上記文献に関連する参考文献を適宜、指示する			
オフィスアワー	月曜日の昼休み。メール (sasada.yoshihiro@nihon-u.ac.jp) で事前にアポイントを取ること。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	レジュメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
2	事前学習	テキストを読み、レジュメを作成する
	授業内容	社会資本としての放送ネットワークとナショナルミニマムとしての地上放送
	事後学習	レジュメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
3	事前学習	テキストを読み、レジュメを作成する
	授業内容	放送分野における個人情報の保護と視聴データの利活用に向けた制度の議論動向
	事後学習	レジュメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること

4	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	放送法等の外資規制をめぐる諸問題
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
5	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	ローカル放送局のファクトチェック能力強化のために
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
6	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	ローカル局制作のドラマの可能性
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
7	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	ネット時代における放送倫理の向上維持
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
8	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	コロナ禍におけるメディア情報と人々の自発的行動
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
9	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	第49回衆院選における有権者のメディア利用から見てくるテレビの選挙報道の課題
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
10	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	続・媒体と媒体の競争
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
11	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	映像メディア市場の競争環境と公共方法
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
12	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	民放テレビの今後
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
13	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	日本におけるテレビ広告費とインターネット広告費の関係
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
14	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	放送制度論
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること
15	事前学習	テキストを読み、レジюмеを作成する
	授業内容	まとめ
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること

科目名	文献研究(仏)Ⅱ	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究、ジャーナリズム研究に関するフランス語文献を講読し、それを日本語として理解する。			
授業目的・到達目標	フランス語でメディア研究、ジャーナリズム研究および社会学の関連文献と論文を講読する。フランス語の専門文献を読み解き、日本語に翻訳することを通して、日本語表現を身に付けることにもなる。 フランス語の学術文献を日本語に翻訳できるようになる。 関連するDP・CP新聞学研究科DP・CP6			
履修条件	とくになし。			
授業方法	フランス語文献（論文、著書）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業時での発表および課題レポートの成果。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	受講生のフランス語能力に合わせて、オンライン上の無料フランス語学術文献を選択する。		
参考書	受講生のフランス語能力に合わせて、授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業計画など フランス語能力の確認、フランス語文献について
	事後学習	授業時に指示されたアドレスで、複数のフランス語文献の概略を確認する。(60分)
2	事前学習	指示されたフランス語文献をのabstractを確認する。(60分)
	授業内容	文献の選択 テキストとして使用するフランス語文献の選択
	事後学習	フランス語文献をダウンロードし、内容全体を確認しておく。(60分)
3	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)

4	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
5	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
6	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
7	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
8	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
9	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
10	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
11	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
12	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
13	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
14	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。(60分)
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。(120分)
15	事前学習	使用テキスト全体の翻訳をまとめる(120分)
	授業内容	まとめと課題提示
	事後学習	テキストの翻訳部分をまとめ、内容の議論をレポートとして作成する。(180分)

科目名	メディア研究特殊講義A	担当者	平井 智尚	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアにかかわる現象を概念・理論的な観点からとらえる。			
授業目的・到達目標	メディアを対象とする社会科学の研究を手掛けるうえで必要となる概念や理論的な視座を授業を通じて理解する。あわせて受講者自身が執筆する論文にかかわる方法論や作法を身につける。 関連するDP・CP：1、2			
履修条件	本科目はI類（基幹科目）である。要覧を確認したうえで原則として自らのコースと専攻に即し履修すること。			
授業方法	授業では文献購読を行う。受講者の報告が主となるので授業に備えて準備しておく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業参加、資料作成、報告内容によって評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2023	SAGE	The SAGE Handbook of the Digital Media Economy	Flew, Terryほか
	2024	Routledge	Algorithms and Subjectivity: The Subversion of Critical Knowledge	Fisher, Eran
	2021	Routledge	Routledge Handbook of Digital Media and Communication	Lievrouw, Leah
備考	各種文献については授業内で適宜紹介する。			
参考書	原則として受講者の研究テーマに即して授業で扱う文献を検討する。			
オフィスアワー	金曜日10:30-11:30（連絡先やアポイントの方法は初回の授業で説明する）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認、課題文献の入手（2時間）
	授業内容	授業内容や進め方について確認
	事後学習	文献購読の準備（2時間）
2	事前学習	課題文献の購読、報告資料の作成（2時間）
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習（2時間）
3	事前学習	課題文献の購読、報告資料の作成（2時間）
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習（2時間）

4	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
5	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
6	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
7	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
8	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
9	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
10	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
11	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
12	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
13	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
14	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
15	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を復習し、自身の研究に生かす (2時間)

科目名	メディア研究特殊講義B	担当者	平井 智尚	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアにかかわる現象を概念・理論的な観点からとらえる。						
授業目的・到達目標	メディアを対象とする社会科学の研究を手掛けるうえで必要となる概念や理論的な視座を授業を通じて理解する。あわせて受講者自身が執筆する論文にかかわる方法論や作法を身につける。 関連するDP・CP：1、2						
履修条件	本科目はI類（基幹科目）である。要覧を確認したうえで原則として自らのコースと専攻に即し履修すること。						
授業方法	授業では文献購読を行う。受講者の報告が主となるので授業に備えて準備しておく。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業参加、資料作成、報告内容によって評価する。				
教科書	年	出版社	書名	著者名			
	2023	SAGE	The SAGE Handbook of the Digital Media Economy	Flew, Terryほか			
	2024	Routledge	Algorithms and Subjectivity: The Subversion of Critical Knowledge	Fisher, Eran			
	2021	Routledge	Routledge Handbook of Digital Media and Communication	Lievrouw, Leah			
	備考	各種文献については授業内で適宜紹介する。					
参考書	原則として受講者の研究テーマに即して授業で扱う文献を検討する。						
オフィスアワー	金曜日10:30-11:30（連絡先やアポイントの方法は初回の授業で説明する）						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認、課題文献の入手（2時間）
	授業内容	授業内容や進め方について確認
	事後学習	文献購読の準備（2時間）
2	事前学習	課題文献の購読、報告資料の作成（2時間）
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習（2時間）
3	事前学習	課題文献の購読、報告資料の作成（2時間）
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習（2時間）

4	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
5	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
6	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
7	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
8	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
9	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
10	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
11	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
12	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
13	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
14	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	担当個所の報告
	事後学習	授業内容をふまえた復習 (2時間)
15	事前学習	課題文献の講読、報告資料の作成 (2時間)
	授業内容	授業のまとめ
	事後学習	これまでの授業内容を復習し、自身の研究に生かす (2時間)

科目名	メディア特殊研究A	担当者	佐幸 信介	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究をグローバル化や資本主義のモードとの関連に位置づけ、テキスト・クリティークを通して現在のメディア状況の分析を行う			
授業目的・到達目標	学術的に書かれた論文を読み、メディア環境を理解すること。さらに論文の構成（目的・方法・分析等）そのものを理解すること。関連するDP・CP1, 2			
履修条件	特に定めないが、難しめの論文を読むため、メディア研究に関する基本的な知識を持っていることが望ましい			
授業方法	義と教科書（テキスト）のレジュメ作成・発表・ディスカッションをひとつのユニットで構成して進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常のレジュメ作成や授業の参加度に応じて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2023	中央公論新社	所有とは何かーヒト・社会・資本主義の根源	岸政彦・梶谷懐編著
	備考			
参考書	適宜、提示する			
オフィスアワー	水曜日・昼休み 研究室 sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの確認と教科書の内容を概観してくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義のスケジュール、発表担当の決定など）
	事後学習	ガイダンスをふまえ、あらためて教科書を読む（2時間）
2	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	所有と規範（第1章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
3	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	所有と規範（第1章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）

4	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	手放すことで自己を打ち立てる（第2章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
5	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	手放すことで自己を打ち立てる（第2章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
6	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	コンヴェンション（慣習）としての所有制度（第3章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
7	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	コンヴェンション（慣習）としての所有制度（第3章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
8	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	経済理論における所有概念の変遷（第4章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
9	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	経済理論における所有概念の変遷（第4章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
10	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	資本主義にとって有限性と所有の問題（第5章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
11	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	資本主義にとって有限性と所有の問題（第5章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
12	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	アンドロイドは水耕農場の夢を見るか？（第6章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
13	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	アンドロイドは水耕農場の夢を見るか？（第6章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
14	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	テキスト全体のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
15	事前学習	第14回までの講義内容をふりかえること（2時間）
	授業内容	講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体をふりかえり、自分なりの見解をまとめること（2時間）

科目名	メディア特殊研究B	担当者	佐幸 信介	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	生命の情報化に関する議論を通して、現在のICTの社会的な分析を検討する			
授業目的・到達目標	学術的に書かれた論文を読み、メディア環境を理解すること。さらに論文の構成（目的・方法・分析等）そのものを理解すること。関連するDP・CP1			
履修条件	特に定めないが、難しめの論文を読むため、メディア研究に関する基本的な知識を持っていることが望ましい			
授業方法	講義と教科書（テキスト）のレジュメ作成・発表・ディスカッションをひとつのユニットで構成して進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常のレジュメ作成や授業の参加度に応じて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2014	法政大学出版局	生そのものの政治学	ニコラス・ローズ
	備考			
参考書	適宜、提示する			
オフィスアワー	水曜日・昼休み 研究室 sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスの確認と教科書の内容を概観してくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義のスケジュール、発表担当の決定など）
	事後学習	ガイダンスをふまえ、あらためて教科書を読む（2時間）
2	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	日本語版への序文、謝辞、序章の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
3	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第1章「二十一世紀における生政治」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）

4	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第1章「二十一世紀における生政治」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
5	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第2章「政治と生」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
6	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第2章「政治と生」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
7	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第3章「現れつつある生のかたち」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
8	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第3章「現れつつある生のかたち」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
9	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第4章「遺伝学的リスク」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
10	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第4章「遺伝学的リスク」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
11	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第5章「生物学的市民」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
12	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第5章「生物学的市民」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
13	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第6章「ゲノム医学の時代における人種」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
14	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第6章「ゲノム医学の時代における人種」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
15	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第8章「コントロールの生物学」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）

科目名	メディア特殊研究C	担当者	平井 智尚	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究を展開していくうえでは、同分野にかかわる学問的な系譜の把握が求められる。本授業ではメディア研究にかかわる基礎的な文献の講読を中心としながら、随時最新の研究動向にも目を配ることで、メディア研究を実践していくための素地を身につけていく。			
授業目的・到達目標	メディア研究の系譜、ならびに概念や理論を理解したうえで、関連する社会現象について受講者自身の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3			
履修条件	メディア、コミュニケーション、コンテンツへの関心を持ち、これらの問題に社会科学の観点からアプローチする意欲を持っている。なお、授業への出席は必須となる。			
授業方法	教科書を使用する。担当者は指定個所のレジュメを作成し報告を行う。また、受講者全員による問題提起とディスカッションを行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業内における報告やディスカッション等をふまえて、到達目標にかかわる知識や積極的な学修態度が身についているかを評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	ミネルヴァ書房	ポストメディア・セオリーズ	伊藤守編
	2023	小鳥遊書房	ポップ・カルチャー批評の理論	ジョン・ストーリー
	2023	勁草書房	メディア化理論入門——政治から遊びまで	ステイ・ヤーヴァード
	備考			
参考書	参考書は随時提示する。なお、英語の論文を扱うこともある			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業の概要、授業の進め方
	事後学習	教科書・参考書を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
3	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）

4	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
5	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
6	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
7	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
8	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
9	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
10	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
11	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
12	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
13	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
14	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
15	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	授業全体のまとめ：これまでの授業内容を整理し、改めて論点等の整理を行う
	事後学習	これまでの授業内容の整理、ノートの作成等 (2時間)

科目名	メディア特殊研究D	担当者	平井 智尚	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究を展開していくうえでは、同分野にかかわる学問的な系譜の把握が求められる。本授業ではメディア研究にかかわる基礎的な文献の講読を中心としながら、随時最新の研究動向にも目を配ることで、メディア研究を実践していくための素地を身につけていく。						
授業目的・到達目標	メディア研究の系譜、ならびに概念や理論を理解したうえで、関連する社会現象について受講者自身の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3						
履修条件	メディア、コミュニケーション、コンテンツへの関心を持ち、これらの問題に社会科学の観点からアプローチする意欲を持っている。なお、授業への出席は必須となる。						
授業方法	教科書を使用する。担当者は指定個所のレジュメを作成し報告を行う。また、受講者全員による問題提起とディスカッションを行う。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	授業内における報告やディスカッション等をふまえて、到達目標にかかわる知識や積極的な学修態度が身についているかを評価する。				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	2021	ミネルヴァ書房	ポストメディア・セオリーズ			伊藤守編	
	2023	小鳥遊書房	ポップ・カルチャー批評の理論			ジョン・ストーリー	
	2023	勁草書房	メディア化理論入門——政治から遊びまで			ステイ・ヤーヴァード	
	備考						
参考書	参考書は随時提示する。なお、英語の論文を扱うこともある						
オフィスアワー							

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業の概要、授業の進め方
	事後学習	教科書・参考書を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
3	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）

4	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
5	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
6	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
7	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
8	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
9	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
10	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
11	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
12	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
13	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
14	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備 (2時間)
15	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理 (2時間)
	授業内容	授業全体のまとめ：これまでの授業内容を整理し、改めて論点等の整理を行う
	事後学習	これまでの授業内容の整理、ノートの作成等 (2時間)

科目名	論文指導 I～IV	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	学位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を学修する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を学修する。			
授業目的・到達目標	論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。その結果として、修士論文を完成すること（社会科学における修士論文は感想文ではないことが前提である）。 関連するDP・CP 新聞学研究科 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	社会学、文化理論、メディア理論の基礎知識を修得済みの者。			
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	とくにない。		
参考書	適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	研究テーマを明確にしておく。（1時間以上）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	年間スケジュールのなかで、研究の進行過程を位置づける。（1時間以上）
2～4	事前学習	研究テーマ、問題意識、方法を確認する。（1時間以上）
	授業内容	研究の目的の設定 方法論の検討 先行研究の検討
	事後学習	研究テーマに即して方法論の検討、先行研究の探索をおこなう。（1時間以上）
5～12	事前学習	問題意識を明確にしておく。（1時間以上）
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 研究テーマの決定 論文概要の中間報告 1
	事後学習	中間報告での問題点、不足点などを確認し、修正や深化へむけて展開する。（1時間以上）

13～20	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。(1時間以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(1時間以上)
21～30	事前学習	現状の到達点を整理しておく。(1時間以上)
	授業内容	論文指導 中間報告 2
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(1時間以上)
31～34	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。(1時間以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(1時間以上)
35～41	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。(1時間以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(1時間以上)
42～45	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。(1時間以上)
	授業内容	論文指導 中間報告 3
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(1時間以上)
46～54	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。(1時間以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。(1時間以上)
55～58	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。(1時間以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。(1時間以上)
59～60	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。(1時間以上)
	授業内容	論文指導 論文の完成、報告
	事後学習	口頭試問へむけての準備。(1時間以上)

科目名	論文指導 I～IV	担当者	中正樹	期間	通年	単位数	1
-----	-----------	-----	-----	----	----	-----	---

授業概要	<p>学術論文の執筆に必要な研究の手続き、具体的には研究計画の立案、テーマの選定、資料の収集、先行研究のレビュー、仮説の構築、調査の実施、そしてデータの分析に至るまでの一連の作業について指導する。受講生は指導によって得られた知見をもとに修士論文に取り組み、その完成を目指す。</p>			
授業目的・到達目標	<p>授業目的：修士論文の執筆に必要な能力を修得する。 到達目標：ジャーナリズムを研究領域とする修士論文を執筆し、完成させる。 関連するDP・CP：1、2、3、4、5、6、7、8</p>			
履修条件	<p>大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として修士論文の執筆を目指す者。</p>			
授業方法	<p>修士論文執筆を目的としたディスカッションと研究報告を中心に進める。授業では、原則としてノートパソコンまたはタブレットを用いる。授業に関する告知や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。</p>			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	授業への参加度、および修士論文の完成度で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参考書	<p>受講生の研究テーマによって、必要な研究文献を適宜指示する。</p>			
オフィスアワー	<p>月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）</p>			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分が研究したいテーマについて説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 修士論文完成までのスケジュール、および受講者の研究テーマを確認する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（2時間）。
2～4	事前学習	自分が研究したいテーマについて説明できるようにしておく（各回2時間）。
	授業内容	研究テーマおよび研究背景の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
5～12	事前学習	先行研究を収集、概観、検討する（各回2時間）。
	授業内容	先行研究の整理および方法論の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。

13～20	事前学習	研究計画に基づき、修士論文執筆を進める（各回2時間）。
	授業内容	中間報告 先行研究の概観、研究目的、研究方法、仮説、今後の見通し等について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
21～30	事前学習	研究計画に基づき、研究データおよび研究資料を揃え、検討する（各回2時間）。
	授業内容	研究過程の報告 研究データのおよび研究資料の検討、分析結果について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
31～34	事前学習	研究データおよび研究資料をすべて揃え、精査する（各回2時間）。
	授業内容	分析結果の検討 研究データのおよび研究資料の検討、分析結果について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
35～41	事前学習	これまでの分析結果および考察について検討する（各回2時間）。
	授業内容	分析結果の考察
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
42～45	事前学習	先行研究の概観、研究目的、研究方法、仮説、分析結果、考察について検討する（各回2時間）。
	授業内容	研究成果のまとめ 修士論文の草稿を完成させ、報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
46～54	事前学習	中間報告で指摘された内容の修正に取り組む（各回2時間）。
	授業内容	論文指導 修士論文の内容を完成させ、報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
55～58	事前学習	修士論文の提出に向け、論文を完成させる（各回2時間）。
	授業内容	論文指導 修士論文の書式を整え、完成度を高める。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
59～60	事前学習	完成した修士論文をもとに、口述試験に備える（各回2時間）。
	授業内容	論文指導
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める。最終審査に向けて修士論文の完成度を上げ、口述試験に備える（各回2時間）。

科目名	論文指導 I～IV	担当者	平井 智尚	期間	通年	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	修士論文の執筆に向けて研究テーマの設定、先行研究のレビュー、論文構成、調査設計などの指導を行う。授業を通じて学術論文を執筆するための手続きや技法を修得する。			
授業目的・到達目標	授業目的および到達目標は修士論文の執筆である。科学論文としての要件を備え、かつ修士に学位に十分見合った文章の執筆が求められる。 関連するDP・CP：1、2、3、4、5、6、7、8			
履修条件	メディア研究専攻を選択し、修士論文を執筆する者。			
授業方法	授業は演習形式で実施する。受講者の報告が主となるので授業に備えて準備しておく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加度、修士論文の内容で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	受講者の研究テーマや関心に応じて必要な文献を適宜提示する。			
オフィスアワー	金曜日10:30-11:30（事前にメール等で連絡すること）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	入学前に作成した研究計画を改めて確認する（1時間以上）
	授業内容	研究テーマおよび今後の研究の進め方について確認する
	事後学習	研究テーマにかかわる資料収集および調査を進める（1時間以上）
2～4	事前学習	報告の準備（1時間以上）
	授業内容	研究テーマにかかわる文献講読・報告
	事後学習	研究テーマにかかわる資料収集および調査を進める（1時間以上）
5～12	事前学習	報告の準備（1時間以上）
	授業内容	研究テーマにかかわる文献講読・報告
	事後学習	研究テーマにかかわる資料収集および調査を進める（1時間以上）

13～20	事前学習	報告の準備 (1時間以上)
	授業内容	論文の進捗報告
	事後学習	現状の問題点や課題を整理し引き続き研究を進める (1時間以上)
21～30	事前学習	自らが実施する予定の調査・方法論を整理する (1時間以上)
	授業内容	調査・方法論の確認
	事後学習	調査の実施に向けた準備を行う (1時間以上)
31～34	事前学習	論文の全体像をまとめる (1時間以上)
	授業内容	論文の構成を確認する
	事後学習	必要に応じて論文の構成を修正する (1時間以上)
35～41	事前学習	報告の準備 (1時間以上)
	授業内容	調査結果の報告
	事後学習	調査内容を論文に反映させる (1時間以上)
42～45	事前学習	報告の準備 (1時間以上)
	授業内容	論文の進捗報告
	事後学習	現状の問題点や課題を整理し引き続き研究を進める (1時間以上)
46～54	事前学習	修士論文の執筆 (1時間以上)
	授業内容	論文執筆の指導
	事後学習	修士論文の完成に向けて問題点や不足箇所の改善を図る (1時間以上)
55～58	事前学習	修士論文の執筆 (1時間以上)
	授業内容	論文執筆の指導
	事後学習	修士論文の完成に向けて加筆・修正を行う (1時間以上)
59～60	事前学習	修士論文の提出に向けて最終的な確認を行う (1時間以上)
	授業内容	口述試験の準備
	事後学習	完成した修士論文を確認し、口述試験に備える (1時間以上)

科目名	論文指導 I ～IV	担当者	山口 仁	期間	通年	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・ジャーナリズム理論に関する研究論文（修士論文）の執筆に向けて、当該分野に関するテーマの設定、先行研究のレビュー、アプローチの設定、論文構成、各種発表などの事柄に関する指導を行っていく。受講生は自身の研究の進捗に応じて、報告、ディスカッションを行う。			
授業目的・到達目標	修士論文を完成させることがこの授業の目標である。なお『大学院新聞学研究科学位論文に係る評価に当たっての基準』には「提出された学位請求論文が、独創性、新奇性、論旨の一貫性、資料適切性などを含め、広く学界に裨益するものであること」とあることから、ここでいう「修士論文」とは「(若干の編集と修正をすることで)査読誌に掲載される内容の学術論文」のことであると担当者は考えている。 関連するDP・CP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	メディア・ジャーナリズム理論に関する基礎的素養を有していること。また担当教員の専門分野を踏まえ、理論研究主体の論文を執筆しようとする意思と意欲を有していること。			
授業方法	論文指導であることを踏まえ、演習形式で実施する。そして演習形式である以上、受講生には綿密な準備、充実した報告、議論へ積極的な参加が求められる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	適宜、平常点（報告準備、報告の質、議論への参加の積極性）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Routledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S. Steensen他
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	備考	S. バラン、D. デイビス著、宮崎寿子監訳(2007)『マス・コミュニケーション理論<上><下>』新曜社。 D. マクウェール著、大石裕監訳『マス・コミュニケーション研究』勁草義塾大学出版会。も参考のこと。		
参考書	M. Carlson and S. Lewis eds. (2015) Boundaries of JOURNALISM, Routledge. 山口仁 (2018) 『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日・水曜日の昼休み。事前にメール等で連絡すること。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	受講生は、自身がメディア・ジャーナリズム理論の系譜をどのように理解しているのか、その中でどこに注目した理論的研究を希望するのかについて熟考した上で、報告のための資料を作成すること。(30分以上)
	授業内容	当該研究指導の方針について解説する。受講生は自身の理論研究に関する問題関心を報告する(一人10分程度)。その上でディスカッションを行う。その後、理論的問題関心の確認し、理論研究に関する修士論文を執筆する意思確認も行う。
	事後学習	シラバス掲載の教科書・参教書、もしくは自身が読んできた関連文献(理論研究に関するもの)をもとに、当該分野の理論研究の系譜を把握し、自身の理論的テーマを確定させる。その後、次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。(30分以上)
2～4	事前学習	報告に向けたレジュメ(5以上の参考文献に言及したもの)を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。(30分以上)
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う(一人15分以上)。その上でディスカッションと指導を行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。(30分以上)
5～12	事前学習	報告に向けたレジュメ(10以上の参考文献に言及したもの)を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。(30分以上)
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う(一人15分以上)。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期(7月前後)に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「日本国内の関連する先行研究の網羅的把握と詳細テーマの設定ができること」である。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。(30分以上)

13～20	事前学習	授業や院生研究発表会でのフィードバックを踏まえて、研究を進めていく。途中の夏季休暇も含め、報告に向けたレジュメ（20以上の参考文献に言及したもの）を作成すること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人30分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。理論研究における独自の解釈を生み出すための道筋を探っていく。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。（30分以上）
21～30	事前学習	報告に向けたレジュメ（20以上の参考文献に言及、そのうち10は厳選したもの）を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人20分以上）。特にこの時期（1月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「詳細なテーマを設定し、それに基づいて海外関連研究の先行研究の把握と整理ができること」である。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。論文草稿の執筆に向けた準備も行う。（30分以上）
31～34	事前学習	適宜、論文草稿（30以上の厳選した参考文献に言及、そのうち20は厳選したもの）を作成し、報告に備えること。論文草稿のファイルは所定のサーバーに随時アップロードすること。論文草稿は修士論文相当の分量であることが求められる。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人30分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料の作成。（30分以上）
35～41	事前学習	適宜、論文草稿を加筆・修正しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人45分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期（7月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「先行研究に関する独自の考察ができること」である。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料の作成。（30分以上）
42～45	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人45分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期（7月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「先行研究に関する独自の考察ができること」である。研究の進捗状況に応じて、適宜、学外での発表（例えば学会のポスターセッション、個人報告）に向けた指導も行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿、および発表資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のための関連資料の作成。（30分以上）
46～54	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（授業時間内で柔軟な時間設定の下、報告することが求められる）。その上でディスカッションと指導を行う。また、学外での報告を行う場合はそれに向けた指導も行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿、および発表資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のための関連資料の作成。（30分以上）
55～58	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（授業時間内で柔軟な時間設定の下、報告することが求められる）。その上でディスカッションと指導を行う。事前審査報告会に向けた指導も行う。
	事後学習	論文の完成に向けた最終調整。（30分以上）
59～60	事前学習	修士論文の修正。（30分以上）
	授業内容	修士論文の完成に向けた指導。
	事後学習	論文の推敲・最終確認。（30分以上）

科目名	論文指導 I～IV	担当者	米倉 律	期間	通年	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	放送、映画を中心とした映像メディア、映像ジャーナリズムに関するテーマの修士論文の完成に向けて、当該分野に関するテーマの設定、先行研究のレビュー、アプローチの設定、論文執筆、各種発表などの事柄に関する指導を行う。			
授業目的・到達目標	授業目的：修士論文の執筆に必要な知識・能力を修得する。 到達目標：映像メディア、映像ジャーナリズムに関するテーマの修士論文を執筆し、完成させる。 関連するDP・CP：1、2、3、4、5、6、7、8			
履修条件	映像メディア、映像ジャーナリズム理論に関する基礎的知識、関心を有していること。			
授業方法	修士論文執筆を目的として、研究報告とそれに基づくディスカッションを軸に進める。授業に関する連絡や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	授業への参加度、および修士論文の完成度で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし		
参考書	修士論文のテーマに応じて、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 オフィス メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分が研究したいテーマについて説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	イントロダクション： 修士論文執筆～完成のスケジュール、および受講者の研究テーマを確認する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（2時間）。
2～4	事前学習	研究したいテーマについて、基本文献、情報、資料などの収集する（各回2時間）
	授業内容	研究テーマ、研究背景・問題意識の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
5～12	事前学習	研究したいテーマについて、基本文献、情報、資料などの収集する（各回2時間）
	授業内容	研究テーマ、研究背景・問題意識の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。

13～20	事前学習	テーマに関する先行研究を収集・レビューする（各回2時間）
	授業内容	先行研究レビュー結果の報告・検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
21～30	事前学習	方法論、分析項目の検討（各回2時間）
	授業内容	中間報告（方法論、分析項目の報告、検討）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
31～34	事前学習	設定した分析項目について分析を進める
	授業内容	中間報告（分析結果の報告、検討）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
35～41	事前学習	ここまでの研究の成果の再検討を行う（各回2時間）
	授業内容	中間総括（研究の進捗状況の検証、修正など）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
42～45	事前学習	分析と考察を進める（各回2時間）
	授業内容	中間報告（分析、考察の結果の検討、修正など）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
46～54	事前学習	修士論文の草稿を執筆する（各回2時間）
	授業内容	中間報告（草稿の報告、検討）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
55～58	事前学習	修士論文の執筆を進め完成させる（各回2時間）
	授業内容	中間報告（論文指導）
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
59～60	事前学習	修士論文最終審査に向けて準備を進める（各回2時間）
	授業内容	論文指導、総括
	事後学習	修士論文最終審査に向け準備を進める（各回2時間）

科目名	研究指導	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	博士學位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を指導する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。			
授業目的・到達目標	論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。その結果として、博士論文を完成すること。			
履修条件	社会学、文化理論、メディア理論の基礎知識を修得済みの者。			
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	とくにない。		
参考書	適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	研究テーマを明確にしておく。(120分以上)
	授業内容	ガイダンス。年度ごとの年間スケジュール、最終目標などの確認。今年度の計画。
	事後学習	年間スケジュールのなかで、研究の進行過程を位置づける。(120分以上)
2~10	事前学習	研究テーマ、問題意識、方法を確認する。(120分以上)
	授業内容	研究の目的の設定 方法論の検討 先行研究の検討
	事後学習	研究テーマに即して方法論の検討、先行研究の探索をおこなう。(120分以上)
11~20	事前学習	問題意識を明確にしておく。(120分以上)
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 研究テーマの決定 論文概要の中間報告
	事後学習	中間報告での問題点、不足点などを確認し、修正や深化へむけて展開する。(120分以上)

21～30	事前学習	今年度の論文作成のための問題等の明確化。投稿先の検索及び投稿条件などの確認。(120分以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	投稿条件にあわせて論文作成。(120分以上)
31	事前学習	今年度の目標設定。論文テーマ策定。(120分以上)
	授業内容	年間スケジュールの確認。論文投稿へ向けての準備。
	事後学習	今年度のテーマの明確化。(120分以上)
32～40	事前学習	今年度の論文作成のための問題等の明確化。投稿先の検索及び投稿条件などの確認。(120分以上)
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 今年度投稿論文の研究テーマの決定
	事後学習	投稿論文のための章立て(120分以上)
41～50	事前学習	投稿論文のための章立て(120分以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	投稿条件にあわせて論文作成。(120分以上)
51～60	事前学習	年度末～夏までの投稿論文へ向けての準備。投稿先及び条件の確認。(120分以上)
	授業内容	年度末～夏までの投稿論文のテーマ策定。
	事後学習	投稿論文のための章立て(120分以上)
61	事前学習	投稿論文のための章立て(120分以上)
	授業内容	年間スケジュールの確認。最終目標としての博士論文テーマの確認など。
	事後学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。(120分以上)
62～70	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。(120分以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(120分以上)
71～80	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。(120分以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。(120分以上)
81～90	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする(120分以上)
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。博士論文完成。(120分以上)

科目名	研究指導	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	研究テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。また論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行い博士論文の完成につなげる。						
授業目的・到達目標	新聞学における理論、制度、歴史研究の基幹研究部門の専門知だけでなく、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する知識を習得することを目的とする。 3年間の知識の蓄積や能力の育成を通して、批判的な思考力に基づく問題の分析能力や解決能力だけでなく、高度な倫理観を育んだことを例証することを目標とする。関連するDP・CP新聞学研究科1、2、3、4、5、6、7、8						
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。						
授業方法	博士論文を作成する。教員の指導、受講者の発表、両者で協力しての博士論文の作成といった手順で、進めていく。						
成績評価	種別	割合	評価方法				
	定期試験						
	平常評価	100%	博士論文の完成度100%				
教科書	年	出版社	書名			著者名	
	備考						
参考書	適宜指示する。						
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp						

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自身の研究計画を明確に説明できるようにする。(60分以上)
	授業内容	博士論文完成までのスケジュールを説明するとともに、受講者の研究計画を確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(60分以上)
2~10	事前学習	質問事項の整理、および先行研究と方法論の確認をしておく。(各60分以上)
	授業内容	研究目的の設定し、方法論の検討と先行研究の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
11~20	事前学習	前回までの講義を踏まえ、研究計画を修正しておく。(各60分以上)
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認し、研究テーマの決定した後に、論文概要の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)

21～30	事前学習	必要な先行研究に関するレビューを完了しておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として、先行研究の読み方の指導と仮説の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
31	事前学習	仮説に至る過程を中心に、報告の準備をしておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として仮説の書き方と設定の仕方を指導した後、2回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
32～40	事前学習	方法論に関する報告の準備をしておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として方法論の解説と検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
41～50	事前学習	必要な資料・データ等をすべてそろえ、内容を理解しておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として分析方法の解説及び考察を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
51～60	事前学習	分析等すべての研究過程を終えて、一先ず最終的な報告ができる状態にする。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として分析結果の検討及び分析結果の修正を行う。
	事後学習	論文指導として分析結果の検討及び分析結果の修正を行う。
61	事前学習	一先ず研究を完了し、報告の準備をしておく。(各60分以上)
	授業内容	3回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
62～70	事前学習	分析のし直し等修正点を確認しておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導としてすべての修正点を指摘し修正方法を理解させる。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
71～80	事前学習	論文を書き上げ、内容のチェックを受けられる状態にしておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導として分析結果の修正及び論文の表記方法の確認と指導を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。(各60分以上)
81～90	事前学習	修正を完了し、論文を完成させておく。(各60分以上)
	授業内容	論文指導の総括として、完成した論文の研究発表と講評を行う。
	事後学習	指摘された点を修正する。論文を完成させる。(各60分以上)

科目名	合同演習	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降のメディア環境、情報環境を前提にそれら変化と社会体の編成とに関する理論的な考察を通して、メディア社会、メディア文化に関する理論的な考察をおこなう。とくにこの1では、メディア社会に大きく焦点をあてる。			
授業目的・到達目標	理論的なアプローチを前提に、メディア社会、情報社会、メディア文化、情報文化について考察できるようになることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。(30分以上)
2	事前学習	テキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)

28	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
29	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成(30分以上)
30	事前学習	全体のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	全体のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

科目名	合同演習	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	研究者養成を前提とし、学会発表と学会誌掲載論文の作成指導をする。			
授業目的・到達目標	受講者の所属学会での口頭発表と学会誌掲載を達成する。			
履修条件	学会に所属し当該学会で口頭発表と当該学会誌への論文掲載を目標とする者のみとする。			
授業方法	学会発表に値する発表方法と、学会誌に値する論文作成の具体的指導を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	受講者所属学会での発表内容と当該学会誌掲載論文の内容により評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	適宜指定する。			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認し、当演習における研究計画を考えておくこと。(60分以上)
	授業内容	初回ガイダンス
	事後学習	研究計画をまとめる。(60分以上)
2	事前学習	文献・資料に目を通し、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
3	事前学習	文献・資料に目を通し、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)

4	事前学習	文献・資料に目を通し、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
5	事前学習	文献・資料に目を通し、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
6	事前学習	文献・資料に目を通し、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
7	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
8	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
9	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
10	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
11	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
12	事前学習	レジュメ作成、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	学会発表の予行演習
	事後学習	指摘事項を振り返り、まとめる。(60分以上)
13	事前学習	レジュメ作成、報告の準備をおこなう。(60分以上)
	授業内容	学会発表の予行演習
	事後学習	指摘事項を振り返り、まとめる。(60分以上)
14	事前学習	学会発表を振り返り、今後の課題を整理しておくこと。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	改善点をまとめ、研究計画に反映する。(60分以上)
15	事前学習	研究計画の修正(見直し)をしておくこと。(60分以上)
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	夏季休業中の課題をまとめる。(60分以上)

16	事前学習	夏季休業中の課題をまとめる。(60分以上)
	授業内容	後期ガイダンス、研究進捗報告
	事後学習	指摘事項を振り返り、まとめる。(60分以上)
17	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
18	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
19	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
20	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
21	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
22	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
23	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
24	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
25	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
26	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)
27	事前学習	研究の進捗状況をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	ディスカッション
	事後学習	討論内容を振り返り、まとめる。(60分以上)

28	事前学習	投稿論文の草稿をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	研究論文報告
	事後学習	指摘事項を振り返り、まとめる。(60分以上)
29	事前学習	投稿論文の草稿をまとめ、報告の準備を行なう。(60分以上)
	授業内容	研究論文報告
	事後学習	指摘事項を振り返り、まとめる。(60分以上)
30	事前学習	これまでの研究の成果を振り返り、今後の課題を整理しておくこと。(60分以上)
	授業内容	総括
	事後学習	研究計画の修正(見直し)をしておくこと。(60分以上)

科目名	ジャーナリズム史特殊演習(思想)	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降の社会にとって、ジャーナリズムおよびメディアをめぐる思考は、思想史においても重要な焦点となる。そこで、社会様式、メディア環境、情報環境の変容とともに、それらをめぐる思考をたどりながら、現代へのアプローチを考える。			
授業目的・到達目標	社会体の編成のなかにジャーナリズムやメディアをめぐる思考を位置づけ、その変容を捉えられるようになる。単に思想の変化を単純な反映論や決定論ではなく、ディスカールの編成として捉え、それをもとに現代を考えられるようになる。			
履修条件	とくにない。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。(30分以上)
2	事前学習	前期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と前期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
15	事前学習	前期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	前期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成(30分以上)

16	事前学習	後期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
17	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
18	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
19	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
20	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
21	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
22	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
23	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
24	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
25	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
26	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
27	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

28	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
29	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と後期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
30	事前学習	後期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	後期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム史特殊研究(思想)	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	2
-----	------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	近代以降の社会にとって、ジャーナリズムおよびメディアをめぐる思考は、思想史においても重要な焦点となる。そこで、社会様式、メディア環境、情報環境の変容とともに、それらをめぐる思考をたどりながら、近代思想を捉え直す。			
授業目的・到達目標	社会体の編成のなかにジャーナリズムやメディアをめぐる思考を位置づけ、その変容を捉えられるようになる。単に思想の変化を単純な反映論や決定論ではなく、ディスクールの編成として捉え、それをもとに現代を考えられるようになる。			
履修条件	とくにない。			
授業方法	受講生と相談しながらテキストを選定し、講読……レジュメを作成し、議論を通して理解する形式をとる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	平常のテキスト講読、毎回のレジュメ作成と報告、議論とそれらのまとめとしてのレポート作成による。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	授業内容に記したように、受講生の目的にあわせて相談して決定する。		
参考書	授業時に適宜指示する。			
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと。(30分以上)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、スケジュール、今後の計画など
	事後学習	講読すべきテキストの下調べ。(30分以上)
2	事前学習	前期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
3	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

4	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
5	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
6	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
7	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
8	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
9	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
10	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
11	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
12	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
13	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
14	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と前期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
15	事前学習	前期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	前期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

16	事前学習	後期のテキスト候補をいくつか選定しておく。(30分以上)
	授業内容	テキストの決定と概要理解、参考資料などの概説
	事後学習	テキストの理解とレジュメ作成。(30分以上)
17	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
18	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
19	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
20	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
21	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
22	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
23	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
24	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
25	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
26	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
27	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)

28	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日の議論の確認と次回のテキスト理解とレジュメ作成。(30分以上)
29	事前学習	今日の議論すべきポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	テキスト担当箇所報告と議論
	事後学習	今日までの議論の確認と後期のまとめのレジュメ作成。(30分以上)
30	事前学習	後期のまとめとしての議論のポイントの確認。(30分以上)
	授業内容	後期のまとめと議論。レポート作成指示。
	事後学習	レポート作成。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム制度特殊演習(システム)	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策に関し、各自がテーマを定め、自ら資料やデータを収集、分析することを通じて、今日のジャーナリズム及びメディア制度の実態について、その理想と現実にかんする実証的な研究を行っていく。			
授業目的・到達目標	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策について、受講者が自らテーマを定め、実証的研究を行うことを通じて、現代日本におけるメディアと政治に関する知識と理解を深めるだけでなく、研究者に不可欠な問題意識の醸成を促し、独自に研究を進めていく力量を身につけることを目標とする。			
履修条件	日本政治とメディアについて、深い知識と関心を有し、特定のテーマに関する問題意識を持っていること。			
授業方法	各自がテーマを定め、自ら研究を行っていくインデペンデント・リサーチが中心となる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	研究への姿勢やその成果に対して評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて指示する。			
オフィスアワー	木曜日 昼休み 2号館大学院教員室			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	ジャーナリズム制度の分析視点について検討する。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
2	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチのテーマの設定
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
3	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチに関する具体的手順の検討。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)

16	事前学習	これまでの研究成果をもとに研究を深めるための検討を行うこと。(30分以上)
	授業内容	研究テーマや方法の再検討
	事後学習	新たな研究テーマに必要な分析手法などの検討を行うこと。(30分以上)
17	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
18	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
19	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
20	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
21	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
22	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
23	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
24	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
25	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
26	事前学習	これまでの研究成果にもとづき、作成する論文の構成について検討すること。(30分以上)
	授業内容	研究論文の構成案の作成
	事後学習	授業での検討にもとづき、論文構成のブラッシュアップを行う。(30分以上)
27	事前学習	研究論文の作成を行い、概要あるいはスケルトンを作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第一回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

28	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第二回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
29	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第三回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
30	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の最終口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム制度特殊研究(システム)	担当者	岩井 奉信	期間	通年	単位数	2
-----	---------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策に関し、各自がテーマを定め、自ら資料やデータを収集、分析することを通じて、今日のジャーナリズム及びメディア制度の実態について、その理想と現実にかんする実証的な研究を行っていく。			
授業目的・到達目標	ジャーナリズムやマスメディアをめぐる法制度や政策について、受講者が自らテーマを定め、実証的研究を行うことを通じて、現代日本におけるメディアと政治に関する知識と理解を深めるだけでなく、研究者に不可欠な問題意識の醸成を促し、独自に研究を進めていく力量を身につけることを目標とする。			
履修条件	日本政治とメディアについて、深い知識と関心を有し、特定のテーマに関する問題意識を持っていること。			
授業方法	各自がテーマを定め、自ら研究を行っていくインデペンデント・リサーチが中心となる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	研究への姿勢やその成果に対して評価を行う。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて指示する。			
オフィスアワー	木曜日 昼休み 2号館大学院教員室			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	ジャーナリズム制度の分析視点について検討する。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
2	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチのテーマの設定
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)
3	事前学習	現代日本政治におけるメディアの関係について、強い問題意識を持つこと。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチに関する具体的手順の検討。
	事後学習	授業を受け、この授業で進めていく独自の研究テーマに関する認識を深めること。(30分以上)

16	事前学習	これまでの研究成果をもとに研究を深めるための検討を行うこと。(30分以上)
	授業内容	研究テーマや方法の再検討
	事後学習	新たな研究テーマに必要な分析手法などの検討を行うこと。(30分以上)
17	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
18	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
19	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
20	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
21	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
22	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
23	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
24	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
25	事前学習	自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
	授業内容	インデペンデント・リサーチとして独自に研究活動を進めてきたことについて、中間報告を行う。
	事後学習	引き続き自ら設定した研究テーマにもとづき、文献、資料、データなどの収集、分析を行う。(30分以上)
26	事前学習	これまでの研究成果にもとづき、作成する論文の構成について検討すること。(30分以上)
	授業内容	研究論文の構成案の作成
	事後学習	授業での検討にもとづき、論文構成のブラッシュアップを行う。(30分以上)
27	事前学習	研究論文の作成を行い、概要あるいはスケルトンを作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第一回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

28	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第二回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
29	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の第三回の口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)
30	事前学習	研究論文を独自に作成する。(30分以上)
	授業内容	研究論文の最終口頭発表
	事後学習	口頭発表にもとづき、論文内容のブラッシュアップを行う。(30分以上)

科目名	ジャーナリズム理論特殊演習(規範)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は規範理論の領域における研究を深める目的で、規範理論の論文作成指導を行う。			
授業目的・到達目標	国際的な水準の研究に到達できるように、ジャーナリズムの規範理論を単なる知識ではなく、十分に理解し応用可能にすることを目的とする。ジャーナリズムの規範理論に関する論文を作成することによって、独自の視点からジャーナリズムに関する諸問題を新たに解釈し、位置づける専門的な分析能力を体得することを目標とする。			
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を研究者としての、自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。			
授業方法	論文を作成する。教員の指導、受講者の発表、両方で協力しての修士論文の作成といった手順で、進めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	論文完成度100%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて適宜支持する。			
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	自身の研究計画を明確に説明できるようにする。(30分)
	授業内容	論文完成までのスケジュールを説明するとともに、受講者の研究計画を確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究目的を再検討しておく。(30分)
2	事前学習	質問事項の整理、および研究目的を明確に説明ができるようにしておく。(30分)
	授業内容	研究目的設定の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。参考とすべき先行研究を選んでおく(30分)
3	事前学習	質問事項の整理、および選んだ先行研究を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	先行研究の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。方法論を検討しておく。(30分)

4	事前学習	質問事項の整理、方法論を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	方法論の検討を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究計画全体を再検討する。(30分)
5	事前学習	前回までの指導を踏まえ、研究計画を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	研究計画全体を再検討する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。研究テーマを再検討しておく。(30分)
6	事前学習	前回までの指導を踏まえ、研究テーマを明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	研究テーマを決定する。。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。仮説を再検討しておく。(30分)
7	事前学習	前回までの指導を踏まえ、仮説を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	仮説を再検討する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。論文概要の中間報告の準備を行う。(30分)
8	事前学習	前回までの指導を踏まえ、論文概要の中間報告の内容を確認する(30分)
	授業内容	論文概要の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。必要な先行研究に関するレビューを完了しておく。(30分)
9	事前学習	先行研究のレビューを明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	先行研究のレビューを行う。その講評の後、先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
10	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
11	事前学習	先行研究を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認し、指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説と方法論の関係を再検討しておく。(30分)
12	事前学習	仮説と方法論の関係を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	仮説と方法論の関係を確認し指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説と方法論の関係を確認し方法論を再検討する。(30分)
13	事前学習	方法論を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	方法論を確定する。
	事後学習	確定した方法論にしたがって、必要な資料やデータの収集を行う。(30分)
14	事前学習	収集した資料やデータを整理して報告できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータを確認し、追加資料等の必要性などを指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。資料やデータの収集を引き続き行う。(30分)
15	事前学習	収集した資料やデータを整理して報告できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータを再確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。収集した資料やデータを方法論に従って分析する。(30分)

16	事前学習	収集した資料やデータを方法論に従って分析結果を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	収集した資料やデータの分析結果の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。分析結果の発表内容を再検討する。(30分)
17	事前学習	分析結果の発表の再検討内容を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	分析結果の再発表を行わせ、講評する。分析結果の考察に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。分析結果の考察を行う。(30分)
18	事前学習	分析結果の考察を明確に説明できるようにしておく。(30分)
	授業内容	分析結果の考察を発表させ、講評する。考察の修正点を示し再検討を促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。考察の再検討を行う。(30分)
19	事前学習	再検討した考察を明確にしておく。(30分)
	授業内容	再検討した考察を報告させ、講評する。これまでの研究結果をまとめた発表の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。まとめの発表の準備をする。(30分)
20	事前学習	まとめの発表の内容を確認しておく。(30分)
	授業内容	まとめの発表を行わせ、講評を行う。必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。修正点を踏まえて、再発表の準備をする。(30分)
21	事前学習	再発表の内容を確認しておく。(30分)
	授業内容	再発表の後、論文作成に移るための指導を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。指導に従って、目次等を作成する。(30分)
22	事前学習	論文の目次等を明確にしておく。(30分)
	授業内容	論文の目次等を確認し、必要な修正点を指摘する。目次に従って、論文作成を進めることを促す。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。論文作成を開始する。問題意識に関する記述から始める(30分)
23	事前学習	問題意識に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	問題意識に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。先行研究に関する記述を始める。(30分)
24	事前学習	先行研究に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	先行研究に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。方法に関する記述を始める。(30分)
25	事前学習	方法に関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	方法に関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。仮説の記述を開始する。(30分)
26	事前学習	仮説の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	仮説の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。事例等に関する記述を開始する。(30分)
27	事前学習	事例等の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	事例等の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。資料やデータに関する記述を開始する。(30分)

28	事前学習	資料やデータに関する記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	資料やデータに関する記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。序と結論の部分の記述を開始する。(30分)
29	事前学習	序と結論の部分の記述を完成させておく。(30分)
	授業内容	序と結論の部分の記述の添削を行う。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。全体を通読し、疑問点はないか確認しておく。(30分)
30	事前学習	疑問点を整理しておく。(30分)
	授業内容	全体を通読し、最終的なチェックを行う。
	事後学習	誤字脱字等の間違いがないか、最終的な点検を行う。(30分)

科目名	ジャーナリズム理論特殊研究(規範)	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	2
-----	-------------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は規範理論の領域における研究を深める目的で、先行研究の方法論を体得するために、代表的なジャーナリズムの規範理論の研究ノートを作成する学修を行う。			
授業目的・到達目標	国際的な水準の研究に到達できるように、ジャーナリズムの規範理論を単なる知識ではなく、十分に理解し応用可能にすることを目的とする。 代表的なジャーナリズムの規範理論に関する先行研究を学ぶことによって、独自の視点からジャーナリズムに関する諸問題を新たに解釈し、位置づける専門的な分析能力を体得することを目標とする。			
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を研究者としての、自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。			
授業方法	三つの代表的なジャーナリズムの規範理論の研究ノートを作成する。教員の解説、受講者の発表、両方で協力しての研究ノート作成といった手順で、進めていく。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	三つの研究ノートの評価各30%、講義に臨む姿勢10%	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考			
参考書	必要に応じて適宜支持する。			
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
2	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
3	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)

4	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
5	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)
6	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)
7	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の再検討内容を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
8	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)
9	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する。
	事後学習	指導内容を理解する。リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
10	事前学習	リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみての疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「リバタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)
11	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
12	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
13	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
14	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
15	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)

16	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)
17	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の発表の再検討内容を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
18	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)
19	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する
	事後学習	指導内容を理解する。リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
20	事前学習	リベラル・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみるの疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「リベラル・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「リベラル・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)
21	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する先行研究を可能な限り用意する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムの先行研究を確認する。受講者の考え方を確認しながら、必要な先行研究を選んでいく。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
22	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムの先行研究に関して再検討し、研究ノートの参考文献とする先行研究を確定する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、用意する先行研究を再検討する。(30分)
23	事前学習	用意した先行研究の内容を確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。先行研究を理解する上で、必要な文献があれば、そうした文献の指摘も行う。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、参考文献を用意する。(30分)
24	事前学習	参考文献の内容を確認するとともに、前回の指導にしたがって、先行研究が理解できているか確認する。(30分)
	授業内容	先行研究を精緻に読んでいく。並行して参考文献の読み方も指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。指導内容に応じて、先行研究と参考文献の注意点を確認しておく。(30分)
25	事前学習	先行研究が精緻に読めたかどうかを確認する。質問すべき事項をまとめておく。(30分)
	授業内容	先行研究の理解の仕方を確認する。読んできた先行研究をまとめて、コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備の仕方を指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表準備を行う。(30分)
26	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表の内容を確認する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表を行わせ、講評する。修正点を示し発表内容の再検討を促す。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の発表内容を再検討する。(30分)
27	事前学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の再発表を行わせ、講評する。研究ノート作成に向けての指導を行う。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備を行う。(30分)

28	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化する準備に伴う疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化を具体的に進める。目次などを確定させ、受講生が研究ノートを書き進めやすいように指導する。
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察を研究ノート化を進める。(30分)
29	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行途中での疑問点を確認をする。(30分)
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノート化の進行状況を確認し、修正点を指摘する
	事後学習	指導内容を理解する。コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめる。(30分)
30	事前学習	コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察の研究ノートをまとめてみての疑問点を確認する。(30分)
	授業内容	研究ノート「コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評をし、必要があれば修正点を指摘する。
	事後学習	研究ノート「コミュニタリアン・ジャーナリズムに関する考察」の講評結果を理解し、必要に応じて修正し、完成させる。(30分)